

2009～2010年度 国際ロータリー第2760地区

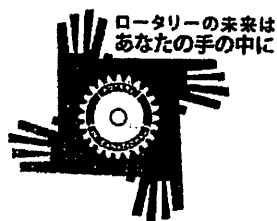
クラブ奉仕委員長会議

ワークショップ会議

「ロータリー哲学について…」

- 1、ロータリー哲学
- 2、奉仕の実践
- 3、ロータリー親睦
- 4、疲れないロータリー

クラブ奉仕委員会



2009年9月9日(水)

2009～2010年度国際ロータリー第2760地区
クラブ奉仕委員長会議

名鉄ニューグランドホテル
12:00～12:50 登録・食事
13:00～16:30 会議

次 第

司会 地区クラブ奉仕委員 糸井 学

- 13:00～ 1) 点 鐘 R・I・2760地区 地区クラブ奉仕委員長 藤原 研一
2) 本年度活動指針について
3) 来賓紹介
13:15～ 4) 挨拶 R・I・2760地区 カウンセラー 福田 清成
13:25～ 5) 挨拶 R・I・2760地区 ガバナー補佐 飯島 卓
13:30～ 6) 挨拶 R・I・2760地区 地区副幹事 山本 信利
13:35～13:45
7) 回答集から見るクラブの現況 地区クラブ奉仕委員 重富 亮

13:45～13:55

コーヒーブレイク

(10分程度)

- 司会 地区クラブ奉仕委員 水野 聖人
13:55～ 8) ワークショップのための問題提起 地区クラブ奉仕委員 天野 正明
14:05～ 9) ワークショップ
司会 地区クラブ奉仕委員 多田 通夫
15:05～ 10) 各テーブル報告
16:00～ 11) まとめ 第2760地区クラブ奉仕委員会カウンセラー 福田 清成
16:10 12) 点鐘 藤原 研一

(敬称略)

第2760地区「クラブ奉仕」の見解

地区クラブ奉仕委員会より

4月19日に名古屋国際会議場において開催されました国際ロータリー2009～2010年度地区協議会での第2分科会＜会長エレクト・副幹事・クラブ奉仕・会員増強・広報・R情報・R研修＞のテーマは「ロータリーの活性化」、サブテーマ：ロータリーをよく理解しようでした。

クラブの活性化には、先ず、ロータリーの哲学（ロータリークラブの活動の全体を貫く基本的な考え方と行為）を理解して勉強して欲しい、と委員長指針を示しました。

1、ロータリーの「哲学」とは

すなわち「ロータリーの奉仕理念」である。

公式文書「奉仕の理想」理念：「奉仕の理想」とは、

「人のことを思いやり、人のためにつくすこと」である。

2つの奉仕理念 ①奉仕哲学 超我の奉仕 Service above self

②実践倫理 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。

- － 決議23－34の第3条「奉仕する者は行動しなければならない」ロータリー哲学は実践哲学である。
- － ロータリーの奉仕とは、「人のためにつくすこと」。アーサー・F・シェルドン
- － ビジネスでも奉仕の心掛けは「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増すことで繁栄への道に繋がる。

★哲学とは：新カント派、論理実証主義、現象学など世界・人生の根本原理を追求する学問。認識論・倫理学・存在論などを部門として含む。俗に、経験などから築き上げた人生観・世界観。また、全体を貫く基本的な考え方。哲学的とは、哲学するように思考・行動するさま。

実際的な規準：規範・標準とするもの。信仰・思惟・評価・行為などの則るべき範例・規則・規範（広辞苑より）

2、クラブ奉仕「クラブサービス」とは？

綱領（クラブ奉仕に関する）：奉仕の機会として知り合いを広めること。

★綱領とは：①物事の大切なところ。眼目。②政党・労働組合などの団体の立場・目的計画・方針または運動の順序・規範などを要約して列挙したもの。（広辞苑より）

手続要覧：ロータリーの第一奉仕部門。クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。

定款（クラブ奉仕に関する）：例会への出席・親睦の保持・プログラムに参加など、クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動。

★例会への出席とは：（例会は人生の道場）：クラブ例会に出席して、事業上の発想の交換を通じて、お互いに切磋琢磨して奉仕理念を研鑽し、自己改善を図る。世のため人のために尽くす心、すなわち奉仕の心を作る。

米山梅吉の「ロータリーの例会は人生の道場」、アナハイムの国際協議会会場の入口には「入りて学び、出でて奉仕せよ」

★定款とは：会社・公益法人・協同組合その他一般に社団法人の目的・組織並びにその業務執行に関する基本規則。またそれを記載した文書。（広辞苑より）

親睦：純粹親睦：ロータリアン同士の深い信頼。自分の足らざるところを他のロータリアンから学ぶ姿勢。

感性的な親睦：ただ単に一杯飲んだりして楽しむだけ。

質：定款上の会員の条件は「善良なる成人で、職業上良い世評を受けている者」。いかにロータリーの奉仕理念を理解し、実践できるかが、ロータリアンの質を判断する基準となる。

3、結 論

例会出席から始まるクラブ奉仕は、クラブの全員がすべきことであり、ロータリーライフの基礎となる。従ってロータリーのロータリーたる所以はクラブ奉仕にある。

クラブ奉仕は、クラブの運営、管理、会務といった分野であるが、例会が奉仕の心を培う重要な場であることを思えば、単なる会務運営に止まらない意味をもっている。クラブ奉仕の意味を追求することが、他の奉仕への出発点或いは、原点であり、クラブ奉仕こそ、ロータリアンとロータリー運動にとって一番重要かつ本質的なものを含んでいるといえるのではないか。

職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕はクラブの外に向かって奉仕する目的を持っていて、いわば奉仕の方法論を問題にしますが、クラブ奉仕は会員の自己研鑽、理念の会得、倫理の高揚、相互理解と親睦、クラブの魅力の培育、会員の増強と維持などの大切な「内に向かっての奉仕」です。ロータリーの本質論を論じ、実践する自分のための奉仕です。(江崎P G)

「参 考」

①クラブとは：1、ロータリー運動の主役はクラブ

2、R I 定款、R I 細則、標準ロータリークラブ定款に記載されていること以外は、すべてクラブ自治権の範疇にある。

3、クラブ管理運営のほとんど、奉仕活動のすべてはクラブの自主性に任されている。

②クラブ細則について：推奨クラブ細則はあくまで推奨に過ぎない

1、委員会構成 2、奉仕活動実践の具体的目標

3、財務 4、会員選挙の方法 5、例会の運営方法

(クラブの実態に合わせて、毎年改定できる)

③四大奉仕とは：(標準ロータリー・クラブ定款より)ロータリークラブの活動の哲学的および実際の規準である

(その1) 第二奉仕部門は、職業奉仕「ボケイショナルサービス」。会員が職業の尊さと価値をクラブの他の会員に示す機会であるとともに、キャリア計画、職業研修、職場での高い道德的水準の推進といったプロジェクトを実施するというクラブの責任でもある。

(その2) 第三奉仕部門は、社会奉仕「コミュニティサービス」。地域社会の人々の生活の質を高めるためにロータリアンが行う様々な活動。これには、ロータリーをより良い生活への希望の源とみなす青少年、高齢者、体の不自由な人々への支援などがしばしば含まれる。

(その3) 第四奉仕部門は、国際奉仕「インターナショナルサービス」。ロータリアンが国際理解、親善、平和を推進するために実施する数多くのプログラムや活動を包含する第四奉仕部門。多くの国際奉仕プロジェクトは、発展途上国の人道的ニーズを満たすことを目的とし、また、異なる国や、文化の人々に対する認識を培うことを助長する。

フォーラム趣旨

今回のフォーラムテーマ「ロータリー哲学」は、会員にとってどんな存在なのか、探求は中々難しいことは充分承知していますが、ロータリー運動の根幹に関わることもあるし、避けているのではなく、一度触れてみる機会も必要ではないかと考えます。皆で話し合い、さまざまな価値観に触れる（ロータリーの意義についての人それぞれの考え方を聞く）だけでいいのではないかと、欲を言えば話しあいの中から少しでもモチベーションが高まればと、ささやかな思いもあります。

「ロータリー哲学」は日常的には特に意識することはありません。ロータリー活動に於いても、いわゆる「大人の対応」で計れば見当外れなことにならないで済んでいます。また、人の気持ちをおしはかるということも、気が付かないままに「ロータリー哲学」に添っているのかもしれない。

「ロータリー哲学」という語彙には何か重たい、避けたくなる響きを感じられます。「哲学」しなくても何も不足はありませんし、むしろ考えないほうが行動しやすく、肌合いに合っている気がします。しかしながら、研修会などに出席するたびに「奉仕せよ」「例会は人生の道場」「純粋親睦」といった命題が耳に残り、現実との差にストレスを感じることもあると思います。いくら立派な大義名分であっても、受身のままで上記の如き命題の下、時間、会費、購読など様々な要請を引き受けることは、長続きしませんし、息切れしてしまいます。

「親睦」についても同様で、「奉仕の理想を实践するために」必要な範疇というのが本来の趣旨であろうと思われませんが、仕事の息抜き、或いは社交の場となって様々なお付き合いが増えてしまうことは、ロータリーの理想に近付いていくことなのか、その判断に迷い、疲れてしまいます。安易に「親睦でコト足れり」と考えるようになってしまっただけはロータリーの理想は遠い存在になってしまいます。

それでは、成り行きとはいえ最早、莫大な投資になってしまったロータリーとのご縁に人生の意味を見出し、ロータリーの魅力を行く末の生きがいとするには、どうしたらいいのでしょうか？

我田引水ですが、原点に還れの言葉通り、迷った時は変わらないもの、普遍に戻ることが一つの方法ではないでしょうか。面倒臭くても、ロータリーの歴史を読み解き、議論を重ねて何かを見出さなければ、クラブに所属する意味が無いのではないかと考えられます。

幸い、ロータリーには100年を超えて多くの先輩が紡いで来た貴重な財産が有るはずで、その蓄積を辿ることは、即ち哲学に触れてくることにもなってきます。

超ベテランロータリアンと共に、この取っ付き難いものを一度俎上に乗せて、何とか料理し、味わってみようではありませんか。

「今までに無くロータリーに正面から切り込んでみた」、本年度「地区クラブ奉仕委員長会議」がそんな場になれば誠に幸いです。

アンケート回答の御礼

この度のアンケート回答のご協力ありがとうございました。

新年度スタート時のお忙しい中での作業であったと推察いたします。

お送りいただきました回答表をできるだけ忠実に記すようにいたしましたが、紙面の関係上、皆様方からご記入いただきました内容を文意に沿って簡略させていただいた箇所もあります。誤字、脱字の非礼と併せましてご容赦の程、お願い申し上げます。

「奉仕の理想」を語り合うには、ロータリー哲学、ロータリー理念、ロータリーのおいたち（歴史）を避けて通ることはできません。

今回、お答えいただきました回答表からの内容には、多様化したロータリー観を垣間見ることができます。

クラブ奉仕委員会では単に方法論及び事例伝達だけではなく、ロータリーの貫かれた思想（ロータリーの本質）に触れる役割を地区クラブ奉仕委員会の見解として、ここ数年「地区協議会」「クラブ奉仕委員長会議」にて訴えてきました。

時代と共に大きく変わるロータリー、会員増強にともなうロータリアンの資質、それにともないロータリアンの世代間ギャップ、今、我々ロータリアンを取り巻く環境は様々な問題を浮かびあがらせています。「茶髪、ピアスを着けた男性ロータリアン」「面白くないロータリーなど、やめちゃうぞ」も今や現実であり、これらのハードルを乗り越えていく為に、ロータリアン一人ひとりの価値観を形成し、醸成するベースとしてロータリーが一貫として貫らぬいている「ロータリー哲学」について、クラブで語り合う必要があると考えています。それは

①、ロータリーの価値観をロータリーの枠内で語る。

②、個々のロータリー観を修正する。

に繋がってまいります。

先人ロータリアンは平和親睦を「やわらぎむつび」とルビを振りました。価値観に正解を求めるのではなく、実情に即した「最適解」を波風立てずに、仲むつまじく模索するということでもあります。ほんのささやかな小さな事かもしれませんが、そんな積み重ねが、ロータリークラブ会員として意気に感じる会員の増加の繋がると考えます。また今回は皆さんと一緒に語りあうすばらしい先輩を特別アドバイザーとしてお招きしております。皆さんと同じテーブルについていただき、同じテーマを平和親睦のロータリー精神で語り合ってください。おおいに学ぶことができる充実した時間になる事を確信し、今回の御礼とさせていただきます。

尚、この資料はクラブで活用していただく為に、見開きA3でコピー出来るようにして、右上に設問項目ごとの順序番号を表示してあります。

皆様方のクラブの発展に少しでも寄与できることを願います。

特別アドバイザーのご紹介

【順不同(事前の了解を得ずの掲載お許し願います)】

福田 清成 様	1936年12月22日 1981年 7月 1984年～1985年 1991年～1992年 1994年～1995年 1995年～1996年 1996年～1999年 2000年～2001年	生年月日 江南RC入会 クラブ副幹事／幹事 クラブ会長 地区米山記念奨学会委員 東尾張分区代理(ガバナー補佐) 地区財団学友会委員 ガバナー
---------	---	---

齋藤 直美 様	1938年11月10日 1979年 2月 2002年～2003年 2003年～2005年 2004年～2005年 2005年～2006年 2006年～2007年	生年月日 豊田RC入会 豊田RC会長 RI2760地区ロータリー財団奨学委員会委員 ガバナーノミニ ガバナーエレクト ガバナー
---------	--	---

江崎 柳節 様	1934年 7月 2日 1982年 2002年～2003年 2004年～2006年 2007年～2008年 2009年～	生年月日 小牧RC入会 小牧RC会長 地区クラブ奉仕委員長 ガバナー 国際ロータリー・ゾーン・チャレンジ・コーディネーター 国際ロータリー研修リーダー 国際ロータリー米山記念奨学会広報委員
---------	---	---

片山 主水 様	1939年11月17日 1972年 3月 1997年 2002年～2003年 2006年～2007年 2008年～2009年	生年月日 名古屋東南RC入会 地区幹事 地区クラブ奉仕委員長 西名古屋分区ガバナー補佐 ガバナー
---------	---	---

星川 直志 様	1934年 3月24日 1981年 1981年～1982年 1984年～1985年 1995年～1996年 2000年～2001年 2005年～2006年	生年月日 名古屋名北RC入会(名古屋北RCより移籍) クラブ幹事 クラブ会長 地区ガバナー拡大補佐(エイド) 東名古屋分区ガバナー補佐 地区協議会実行委員長
---------	---	--

早川 八郎 様	1936 年 1 月 1 日	生年月日
	1964 年 4 月	春日井 RC 入会
	1973 年～1974 年	クラブ幹事
	1983 年～1984 年	クラブ会長
	1997 年～1998 年	東尾張分区代理 (ガバナー補佐)
	1998 年～1999 年	地区クラブ奉仕委員
	2001 年～2002 年	地区クラブ奉仕委員長
	2008 年～	地区ロータリー未来委員

関口 宗男 様	1938 年 12 月 2 日	生年月日
	1979 年	名古屋みなと RC 入会
	1986 年～1987 年	分区代理幹事
	1997 年～1998 年	クラブ会長
	2001 年～2004 年	地区職業奉仕委員長
	2005 年～2006 年	創立 40 周年実行委員長
	2008 年～	地区研修委員

國分 孝雄 様	1939 年 5 月 25 日	生年月日
	1979 年	名古屋和合 RC 入会
	2000 年～2005 年	地区環境保全委員長 (5 期)
	2001 年～2006 年	2005 年国際博委員
	2006 年～2007 年	名古屋和合 RC 会長
	2008 年～2009 年	東名古屋分区ガバナー補佐

鈴木 孝則 様	1942 年 11 月 17 日	生年月日
	1992 年～1993 年	地区幹事
	1995 年～1996 年	地区資金委員長
	1996 年～1998 年	地区青少年活動副委員長
	1999 年～2000 年	地区環境保全委員長
	2000 年～2001 年	あま RC 会長
	2003 年～2006 年	地区ロータリー財団委員長
	2007 年～2008 年	西尾張分区ガバナー補佐
	2007 年～2010 年	地区研修委員長

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（１）

- 1 2人のバストガバナーを輩出した当クラブでは入会后10数年クラブ協議会等で指導を受けてきました。疲れないロータリー活動、楽しいロータリー活動と相反する状況もありましたが、日々の生活の中でロータリーが重荷にならない様心掛けています。
- 2 大変難解な問いで答えに窮しますが、クラブ内でロータリー「哲学」や「本質」について、例会及び普段の会話においても議論されることは少ないように思います。
また新人に対しても明示的に教育をするというシステムも特にありません。
例会やさまざまなロータリーに関する書籍等によって、各ロータリアンが自らのロータリー観を確立することが肝要と思います。
- 3 ロータリー哲学と会員意識の距離を埋めるには判りやすい哲学の説明と万人に受け入れられる内容が必要。
- 4 ロータリーの哲学というより、本質について学びたいという意識が感じられる。
- 5 自分自身がまだ理解していない。
- 6 哲学などとむづかしいことを語らず又勉強せずとも、楽しく友愛を深めることが一番よいのでは？
地区委員長は「哲学」を「奉仕の哲学」と理解されているようですが、「奉仕について」をもっと分かりやすく、「他人にやさしい思いやりの心と実践」を時代に即した形で議論し、実践してゆくことが重要と思います。
クラブでは、昨年度末に三戸岡道夫氏著書の「米山梅吉の一生」をほとんどの会員に無償で配布。「利己のない精神」公益精神（報徳思想）の原点を学ぶ機会を与える。
地区の「哲学」に関する会員の意識と現状について、アンケートを実施しなかった。
- 7 入会動機は「何となく誘われて」といった無目的派が過半数を占め、入会目的があったとしても親睦（知人・友人・交流）目的が多く、ロータリーの究極目的である奉仕を入会動機としている会員は皆無に近い状況です。
- 8 ロータリー哲学と会員意識の距離
会員の多くが、人間関係のつながりの中、義理的感情の基ロータリークラブに入会在籍している方が多い。ロータリーの哲学等の本質を理解又は当クラブが実施している活動が、なぜ毎年実行するなどの背景まで理解できていないし、このロータリー理念とは関係なく年間行事として楽しいかどうかが各会員の主要な関心となっている。
本質について27名のクラブの中では、展開は困難さを伴い難しい。先輩の背中を見ながら展開していくOJTが主体とならざるを得ない。理論なのだろう？
- 9 学習の必要性は多くの会員の認めるところ。但し会員減少に伴い学習、本質を語る→堅苦しい→定着にマイナス の考え方あり。
一方で本質を語り合わない、学習をしない、うわべのみの会話、つきあい→会員失望退会（特に志の高い会員）の事例あり。
- 10 クラブ風土について、当クラブは歴史と伝統に培われ、先輩からクラブの歴史を学び、クラブ活動がスムーズに運営されております。又、ビジターの方からは、例会が堅苦しく思われるかもしれません。
- 11 そんな事考えたこともありません。
- 12 「哲学」について現状クラブ内で十分な教育や論議が行われていないため、「哲学」を意識し理解していない会員が複数いるのが現状であり、今後は例会等で哲学について討議を行っていく予定。（新入会員には教育を行っている）。

-
- 13 ロータリー哲学については、年齢、会員歴、「哲学として理解」できるなど、会員それぞれのレベルに違いがあるように感じられます。
クラブ内においても会長の1年任期と、新入会員への教育・指導方法にも違いがありますが、若い会員ほど「哲学」としての意識が少ないように見受けられます。
また、哲学か社交の場か、あるいはロータリー会員としての優位的な立場などを討議するのか、新入会員への教育として継続するのか、1年限りの会長の選択に任されていることも現状ではないでしょうか。
-
- 14 クラブ奉仕プロジェクトを達成するために担当委員会相互の連携を計りながら奉仕活動と親睦活動の両輪をもってクラブの発展に寄与する。
-
- 15 創立50周年を迎える当クラブは会員のロータリアンとしての意識も高く、何の問題もなく活動しています。新入会員に対しては年間3回ほど「ロータリーとは」について学んでいます。
-
- 16 例えば、企業が自らの事業を営むに当たり、「経営理念」が必要であると同様に、ロータリーの活動においても「ロータリーの考え方を深く学んでいくことがとても大切である」と思っているロータリアンが多い。
反面、それをあまりにも強調すると会の中で浮いてします、と感じている会員もこれまた多い。
-
- 17 私にとってのロータリーとは、自己の道徳的な抑制により他人を思いやる寛容の精神の確立で人生の修行の道場と考えています。
新入会員や若い人たちを含めてロータリーについての勉強会をクラブ研修委員会で行っています。先輩のロータリアンが先生役となっています。
-
- 18 本年度大澤輝秀ガバナー方針として「職業奉仕がロータリーの基礎」と話して見えます。私共のクラブでは、2年程前に第一回職業フォーラムを開催してテーマは「職業奉仕を学ぶ」と「ロータリー哲学再発見」です。
テーマ1は、「純粋親睦と自己研鑽」についてメンバーが卓話
テーマ2は、「決議23-34」についてメンバーが卓話
テーマ3は、「四つのテスト」についてメンバーが卓話
事例として「職業奉仕一私の事例」2名の方の卓話
メンバーの「哲学」に対する意識はクラブがその問題にどう対峙するかということだと思います。
-
- 19 70歳以上のロータリー歴の長い会員と、50歳台までのロータリー歴の浅い会員とのギャップはかなりあると思う。
-
- 20 ロータリー情報委員会より最新情報を提供していただき、またロータリーの友からも情報をとり参考として勉強をする。
「哲学」について、超我の奉仕であり特に意識していません。
-
- 21 当クラブは、哲学というよりも身の丈に合った運営活動を行なうことが肝要である。
-
- 22 哲学とは何か？ロータリーとは何か？ロータリー観、ロータリーをそれほどつきつめて考えている会員は少ないと思う。
わがクラブにおいては「四つのテスト」そのものがロータリーであると、会員の意識を高めています。
-
- 23 基本的にはロータリーの綱領で充分であり、日常の活動の中で綱領を意識して実践していくことが大事だと思います。
-
- 24 ・ロータリー哲学は各クラブ独自のものであり、夫々のクラブで会員が共有するものと心得ます。当クラブでは、入会前から入会後もクラブの歴史、伝統と文化について啓蒙しています。
・前年度より正式入会推薦前に入会候補者は事前審査を実施。当クラブにふさわしい人物の入会を促しています。（「入会3年未満の会員は推薦者の資格がない」細則は堅持しています。）

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（２）

- ・新入会員はロータリー情報委員会任せではなく、クラブ奉仕委員会全体で支援しています。
- ・今年度は、会長方針で、私どものクラブのロータリー哲学ともいえる「職業奉仕」の理解と実践に活動の重点を置いています。

25 例会は立食例会を増加させて会員間のコミュニケーションを促進させれば相互の切磋琢磨となります。

26 ２年前よりチャレンジ１００特別委員会を設置して新会員が大幅に増加したことから、ロータリーに対しての勉強と理解を目的に各新会員にインストラクターをつけ、また新会員に対してのオリエンテーションを実施しているが非常に好評である。今後はある程度経験年数でグループを作ってすべての会員に対して勉強会を開催したいと考えています。

新会員の時にしっかりとした勉強システムでの経験があれば、「哲学」に対するアレルギーは起こりにくいと考えます。

27 特に、拒否反応は無いように思われます。分かりやすい内容ならゴーギャンの「我々はどこからきたのか。我々は何ものか、我々はどこに行くのか」をもじって、我々をロータリーに置き換える程度です。

28 哲学に関する会員の意識は、現状は会員がおたがいに接触したり、他クラブの活動を見たりして会員の意識はかなりあると思うが、それほど強くないと思う。それで自分は大学時代の先生に、「人間は書物で学ぶか、自分より優れた人と話しをするか」の２通りしか自分を高める方法はないと教えられた。自分を高めクラブのメンバーをひきつけ成長させたい。

29 ロータリーの奉仕は“Thoughtfulness of and helpfulness to others”＝思いやりの心をもって他人のためにつくす

“He profits most who serves best”＝最もよく奉仕する者、最も多く報われる というロータリー哲学の実践にあります。

ロータリアン必携（１９８５年、１９８７年改訂版）第１巻（総論）２０頁に「ロータリーのプログラム」の中で、「奉仕の理想」とは「他人のことを思いやり、他人のために役立とうとすることである」と定義されています。

しかし、会員の意識としては、新会員の方々とベテランの方々において、かなりの意識の差があります。新会員の方々はロータリー哲学は聞いたこともなく、また興味を持って聞くまではロータリーライフをある程度味わい興味を抱くまでに期間が必要です。また入会動機もただ無理やり誘われたという人も多く存在する。それぞれの会員の仕事の忙しさ、奉仕に対する意識の違い、各クラブにおいてロータリーの本質についての議論を行っているかどうかにより、各クラブ間で差がでると思う。

ロータリー哲学について真剣に考えている会員は少数であると考えられる。

30 確かにロータリー哲学の実践は重要かも知れない。しかしながら、時代の変化とともに人々の意識も変化している。ロータリーの哲学を理解しない者は入会できないようであれば、当然会員増強など望めないではないだろうか。新会員の者でも年月を経るうちにロータリー哲学を徐々に学んでいけばよいと思う。入会１年目から、新入教育と称して頭ごなしにロータリー哲学を押し付けるようなクラブでは長続きしない。「面白くなければやめちゃうぞ」が決して悪いとは思わない。面白いロータリーを作りながら、ロータリー哲学を学んでいけば良いと考える。

31 １、クラブ理念のことでしょうか ２、今年度会長方針は「初心忘るべからず」です。

32 当クラブでは、例会の常時出席要請を行い、またクラブアセンブリ、各委員会ごとに会合を適時おこない、地区の会合が行われた時は、例会にて報告するよう要請している。また新入会員に対してはベテランクラブ員による教育日を設けロータリーについての歴史、ＲＩおよび当地区のいろいろな活動、当クラブのプロパーな活動、そしてロータリアンとして最低守るべき事項等について時には優しく、時には厳しく勉強会を開催している。また、昨年度私どもクラブの会長挨拶はすべてロータリーについてのみで、すばらしい啓蒙活動が行われました。このような活動を通してロータリーを理解してもらい会員意識の共有化をはかっている。

33 「ロータリー哲学」と大上段に構えることなく、身近なところ、実践できるところから「親睦」や「奉仕」を心がけて活動しています。

34 哲学とは？＝分からない人が多いと思います(自分も含めて)
新入教育について＝細かいことまでは注意しない傾向です。

35 確かに、ロータリー「哲学」は薄らいでいます。
新入教育＝「鉄は熱いうちにうて」に力を入れたいと思います。

36 メンバー個々人の哲学の集積が「ロータリー哲学」に帰結していくと思いますので、個々人の研鑽に加えて、過去からの成果・歴史を学び、伝えたいと思います。

37 1、「決議23-34」第1項に基づくロータリー哲学

ロータリーとは基本的に一つの人生哲学であり、自らの利益を求める利己の心と、他人のために奉仕したいという利他の心の間に存在する矛盾を和らげようとするもの。すなわちロータリー哲学はService above selfという奉仕哲学であり、They profits most who serves bestという実践倫理の原理に基づくものであると規定。

2、アーサー・F・シェルドンのサービス概念に基づくロータリー哲学

ロータリー哲学は、経営学上の「サービス概念である科学的手法」を武器にした倫理運動である。このように理解すると、日本でも江戸時代から存在している近江商法や伊勢商法との関連づけができ、三井の大番頭であった米山梅吉氏が、三井家の家訓にロータリーをプラスすることに情熱を注いだのかも理解できる。それは帰国したばかりの三井物産の若手社員であった福島喜三次氏から、ロータリーの基本になっている。当時のアメリカの経営哲学手法を学び魅了されたからではないのか、そこにロータリーの発展のキーがあったのではないのか。

※ アーサー・F・シェルドンのサービスとは(事業が継続する条件)

①適正な価格 ②経営者・従業員の接客態度 ③品揃え ④公正な広告 ⑤取扱商品に対する知識 ⑥アフターサービス等が、どのような悪条件の中でも継続的に利益をあげ、業績を伸ばしている事業所の共通の営業態度であり、これに倫理的姿勢や価値観を統合した概念として、サービスという経営概念をロータリー運動の中心目的とした。「決議23-34」に基づくロータリー哲学は、ベテランロータリアンにとって金科玉条ではありますが、あまりにも直裁で、はしたないと考えている方が多いように感じます。

一方、シェルドンのサービスのサービス概念に基づくロータリー哲学は、正に顧客満足度中心の経営、マーケティングアプローチであり、現代経営学の先駆けともいえ、非ベテランロータリアンにも理解しやすいと考えます。

奉仕の理想とはServiceという概念の哲理であり、これを職業の基礎とすれば、Serviceすればするほど多く儲かるということになる。このような説明も非ベテランロータリアンには必要ではないでしょうか。

38 「ロータリーとは何ぞや」という問題意識を持ちながらロータリー活動を日々行なっている会員は現状私を含め少ないと考えています。ただ、これまでの経験からすると、ロータリーの先輩の方々のいう「ロータリーにノーはない」「ノーはロータリーを売るときである」という言葉に表されているとおりロータリーの役職がロータリーとは何かを考えるきっかけになるといえると考えます。当クラブでは会長スローガン「原点を見つめ直そう」に基づきクラブ奉仕委員会としてIDM例会の企画・運営を行う予定です。

39 「哲学」と言われると「いったい何だ？」と思うが、私が考えるには「ロータリーの綱領」に書かれている内容ではないでしょうか。すなわち会員は自身の職業を通して「奉仕の理想」を実現するように努力しているはずであるが、本人はあまりその事を意識してなく、クラブとして奉仕活動に参加することで、なんとなく「奉仕の理想」を実現している様な気分になっている会員が大半ではなからうか。

「哲学」…私自身不勉強で強く意識いたしておりません。今回出席させていただき皆様のご意見を参考にクラブに反映させたく存じます。

40 ロータリーの哲学について熱心に語る会員もいますが、それぞれの会員において意識の差はかなりあると思います。ただ哲学を語ることに違和感を覚えるクラブではないと思います。

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（３）

- 41 ・ロータリーの本質について、会報・ロータリーの友の読み所を月二回ほど情報として紹介し理解させる。
・インフォーマルミーティングを開催。（入会三年未満の会員）
- 42 ロータリー哲学をしっかりと理解出来ている会員は一部かもしれませんが。我がクラブではこのため新入会員オリエンテーションを普段の例会の中で開催して新入会員だけでなく既存の会員も今一度知識の再確認を図っていきたい。ロータリー哲学を理解しない限り真の意味での奉仕活動は出来ないと考えます。
- 43 ロータリー１００年にもなれば当初の会員意識と今の会員意識とは違って当然と思う。互いに分かり合えることがロータリー意識と思う。
- 44 クラブのモットーである「和やかにして風格あるクラブ」を基本としている。新入教育は情報委員会が担当している。
- 45 ロータリー哲学については新入会員教育における用語の説明、例会時における会長の挨拶、折にふれてあるＰＧのご指摘等により会員内の哲学にたいする意識はあると思われます。ただし、その意識が会員個人の日常生活の中でどのように実践されているかについてはかなりの差があると思われますし、そのことをテーマとしての限られた時間の中で会議を持つよりは例会時の会話の中で与えられるヒントをもとにして各自が理解していく方が身に付くと思われます。
- 46 奉仕の哲学ともいえる「超我的奉仕」の意味を理解しているのはロータリー歴の長い会員のみと思われる。入会年数の短い会員ほどその言葉には縁遠く未認識と思う。当然現状としてもその認識度に正比例するであろう「決議２３－３４」の再認識をする機会をつくるべし。ロータリー情報委員長に期待する。
「哲学」とか「実践」とか、個人として、またクラブとしても無意識のうちにそれらは行動されているのではないか？またそんな部分は多分に存在するものと思われる。
- 47 ロータリーは実践・実行があり、後から理論が付けられ、ここで「学ぶ」とは理念を身に付けることであり「習う」とはこれを実践に移すことであります。当クラブについては、マンネリ化した改革すべき部分の排除と新しい感覚に基づく若い方達の実行力に期待をしたいと思います。
- 48 「ロータリーの哲学」について会員の考えの中には事前に持ち合わせいる訳では無く、年々経験を重ねるごとロータリー活動自体始めは馴染まないところが多いようですが、だんだんと考え方が変わって行くように思われます。個人差はありますが、ロータリー活動の意味を理解しようと努めている会員の方はロータリーの哲学を早く認識できるのではないのでしょうか。
- 49 当クラブは今年で１０年目の若いクラブです。会員数もなかなか増えず、現在はクラブ奉仕だけで精一杯の気がします。一昨年の会長方針で、多くの同好会が出来ましたが飲む機会が多くなり、ロータリーとはどうあるべきかと言うことを少しずつ語るようになってきたように思えます。しかし、深く考えている会員はごくわずかにとどまっているのが現状です。
- 50 特に意識したことはありません。ただ、日頃の活動のなか、先輩達の行動を見たり、話を聞いて自然に理解してきました。「哲学とは？」と大上段に構えられると、少し息苦しいのでは…。
- 51 ロータリーを語ったり考えたりする機会が少なくなっています。ロータリー情報委員会の活動の活性を計りたい。
- 52 手続要覧にロータリーの哲学という文字は見当たりませんが、ロータリーの哲学とは何でしょうか？委員長会議で勉強させていただきます。
- 53 時代背景の影響か、むつかしく考える人が少ない。ロータリークラブにメンバーとして生き残れるかどうか切実な問題である。

54 哲学ねえ～

- 55 ・クラブ理念のことでしょうか？
・今年度会長方針は「初心忘るべからず」です。

56 新人に対するロータリー哲学の披露の場はオリエンテーションに限られてしまっているといっても過言ではありません。さらに入会后、「本質について語られない」「教えない」状況が続きます。

しかし、かつてIMのテーマに「四つのテスト」を取り上げたことがあり、また、ある会長年度時には例会の会長挨拶のすべてが1年間を通じて「ロータリーについて」であったことから公然と哲学を語ることへの抵抗はそれほどないものと思われます。今後も時折このテーマを織り込むことが重要でしょう。

- 57 「哲学」への高い関心と熱い思いをもつ会員と、全く関心がなく「哲学」を語ることに拒否反応を示すような会員、この双方がクラブ内にあると思う。世代の違い、ロータリー歴の長さによる違いなどによると思うが、どちらかといえば若い会員ほど関心度は薄い。

今年度はこのことへの反省を踏まえ、新入会員を迎えて開催されるロータリー情報委員会のIDMIに、クラブに長く在籍する先輩ロータリアンにも参加して情報委員会のIDMIに、新入会員が「哲学」に触れる最初の機会を設けようと試みている。

- 58 私どものクラブは会員数も少なく、かつ年齢差も目立っています。そのため、クラブ内での会話の内容も日常的なことが中心で、ロータリークラブの現状や問題点等についての話はあまり語られないのが現状です。

- 59 哲学は意識するものではない。クラブ内での社交優先は限界がある。故に自然体でよい。ロータリー活動に於ける藥物一孤立と内向。

- 60 創立8年目をむかえる若いクラブのため、ロータリー哲学についてわかりやすい言葉、理解しやすい言葉で語り合える和やかな雰囲気の大切さを感じます。

- 61 ロータリー哲学という言葉はオフィシャルな用語なのでしょうか？定義がわからないので回答できません。

- 62 当クラブでは「RC＝職業奉仕」との意識が強く、私の記憶の範囲ではありますが「哲学」については真正面から論議されたことは無いように思います。

- 63 哲学を語る場としては、年一回のロータリー情報委員長が三年未満の会員を中心にファイアサイドミーティングを召集する程度。親睦優先の感あり。

- 64 哲学、ロータリー哲学を意識している会員はいないと思う。

- 65 私の所属するクラブでは、ロータリーを哲学として捉えたり議論したりする風土はありません。会員増強の際、哲学について語ったら新入会してもらうことは難しくなるでしょう。四大奉仕についての説明くらいがよろしいのではないのでしょうか。

- 66 全会員に再度ロータリーの綱領及び四つのテストなどを認識させる。

- 67 世の中が大きく変わるなか、ロータリーの意義とかあり方とかも変化せざるを得ないと思います。従って「哲学」とか「本質」について話し合う必要性は十分に感じていますが、今はその時期にふさわしくないと考えます。あまりに経済が悪すぎます。この不況の嵐がおさまるまで、「本質論」は一時棚上げが適切と考えます。

②「奉仕の実践」の現状について（１）

- 1 実践にも様々あり。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕のように外に向けて広い意味での実践を考えロータリーに取組んでいます。
- 2 当クラブの雰囲気として「職業奉仕」の実践が第一、しかも「We serve」でなく、「I serve」の考え方が多数と思う。従いクラブとして全員で一定の社会奉仕活動をするというケースは少ない。ただし否定するものではなく、クラブとして取り組める具体的な社会奉仕の実践について現在模索中である。
- 3 奉仕等の実践についてはクラブ内で話は出ても「奉仕」を具体的に「実行」する事が少なく参加人数も少ない。
具体的な参加しやすく継続出来る「奉仕活動」が必要。
- 4 会員各位は、自然にロータリアンとしてのプライドが芽生えており、場面場面において奉仕の実践というより、紳士として対応しているように見受けられる。
- 5 実践力があまりできず、人生が変わったと思う事を体験していません。
- 6 個人で行うことには限界があります。クラブ会員全員で実践し本業にさしさわりのない範囲で実践します。「ノーネクタイ」に関してクールビズの時期のみノーネクタイ賛成です。
- 7 「奉仕の実践」は、やれと言われてやることではないと思います。ロータリアン自身がそれぞれの職業を通じて奉仕の理念を理解し、それを実践し、貢献すれば良いと思います。
各クラブが行う奉仕の実践は、各クラブで最適と思われる（ロータリーにふさわしい？）いろいろな形の奉仕をすればよいと思います。
- 8 当クラブが主催する、「高校生ボランティアハートネットワーク」は、豊橋市内の１２校の高校生が学校で取り組んでいるボランティア活動を尊重し、参加校の相互理解・交流・活動報告の場を設け、ボランティア精神の育成と地域社会に対しての啓蒙活動の支援をしています。
- 9 年々肥大化しているロータリー活動と縮小化するメンバー数のなかで実践は非常に困難が伴う事態となっている。ただ慣例としてロータリー活動は負担でありその意義または身の丈の事業かどうか疑問点が残る。単年度事業であるべきと聞いたのにＣＬＰ的には３年継続となっていたり事業は意味も分からず継続していく傾向にある。実践とはただ単にやれば１年終わるという感覚である。身の丈に合ったロータリーとは？である。
- 10 実践を伴い結果を体験してこそ活動の意義を確認できる。
代表的事例：知多市ジュニア吹奏楽団発足と同時に支援開始、５年前よりは市教委、市文化協会も賛同共催となり、約２０年の歴史を誇っている。地域社会の将来性も含めた奉仕ニーズを適格にとらえ地域文化活動の先鞭をつけることとなった。
- 11 ロータリーの原点である職業を通しての奉仕活動を主にして、クラブ会員で活動する奉仕活動は、あまりしておりません。
- 12 普通に行っているつもりです。
- 13 当クラブはＣＬＰを採用して長期計画を立案し今期で３年目をむかえる。従来の２２委員会をＣＬＰ標準の５常任委員会（クラブ管理・広報・会員組織・奉仕プロジェクト・財団）と奉仕プロジェクト常任委員会の下に理事が担当する職業、社会、国際の３委員会を設け、８委員会にて具体的に効率化を図りクラブの運営を行っている。
- 14 ノーネクタイでの例会を実施中。

-
- 15 ロータリーの奉仕と、昨今のボランティア（NPO含む）活動との相違をどのように説明するかの時期がきているのではないのでしょうか。金銭だけによる奉仕なのか、実践も含めた奉仕なのか、地域とともに協働する奉仕なのか、討議する必要があるかどうか課題ではないのでしょうか。特に若い会員に対して奉仕の実践を説明・指導すべきか、あるいはクラブライフを優先する意味での奉仕もあるのではないかも考えてはいかがでしょうか。
-
- 16 「新世代委員会」＝ロータリーカップ大会 in 一宮 主催
「会員増強委員会」＝会員増強を促進するための会員増強プロジェクトを設置
「20周年記念例会」＝20周年準備委員会を設置
-
- 17 ・CLPについてはケースバイケースで適用している。
・「ノーネクタイで行こう」については当クラブは賛成しない。
・規則基本的には一枚着替えて出席する寛容が基本です。
-
- 18 やむなく退会し、その後も立派にロータリーの精神を持ち続け地域に貢献している方々がおられる。ロータリーアンの実践といえはその深さにおいて様々なのはいがめない。要は、総てのロータリーアンが真のロータリーアンになること、すなわち「奉仕を奉仕と感じさせない豊かな心の持ち主になること」そうすれば自らと実践はついてくる。
-
- 19 個人での奉仕の実践となると非常に困難が伴います。ある程度の規模や考えを達成しようと思えば大勢の会員の協力が必要になります。奉仕に関わったものは他者への奉仕によって自己の心の平安を得ることになると思います。
-
- 20 CLP＝私どものクラブは2008～09年度40周年を迎え現在、記念誌の作成に取り組んでいます。記念誌の発行に伴い過去、現在の情報を分析し未来のロータリーのあり方を検討し提案します。
「ノーネクタイでいこう」慣習への挑戦について＝地球温暖化でエコ意識も高まり私どものクラブでは6月・7月・8月・9月まではノーネクタイでもよいと理事会で承認されています。公式な行事は背広にネクタイになつていますが、ロータリーの活性化や若い人を入会させるのに役に立つかどうか検証いたします。
-
- 21 社会奉仕と新世代委員会奉仕が主体です。
-
- 22 本年度も交換留学生のプログラムの実施と「NIIHONGOSピーチコンテスト」の協力、参加助成する。地域の青少年の各種活動を支援、助成また瀬戸市養護学校への支援等
-
- 23 地域社会に溶け込んで行うこと
-
- 24 現在会員数が減少しているため、クラブとして奉仕活動は最小限に計画しています。会員が自分の行動が奉仕的であるか、他利の意識で行動しているか？勿論自分を生かしながらである。
-
- 25 各委員会でマンネリではなく今必要とされている奉仕活動は何か、を充分に検討しあって、より有効に予算を使い切ることが大切である。要は各委員会の活性化をはかって行くことが必要と思われる。
-
- 26 ・会員自身と職業、とその職業倫理についての認識を新にし、会員同士お互いの職業とその倫理についての理解を深め職業を通じての奉仕を個人個人が考えることを啓蒙しています。
・イニシエーションスピーチもその機会をとらえて重点事項と考え実施しています。
・「ノーネクタイ」は運動としては理解できますが、強制には反対です。TPOそれぞれ個人の考え方は尊重されるべきではないでしょうか
-
- 27 私どものクラブは外部より講師を豊富に招く。当クラブの大先輩にお願いして各卓話を通じて奉仕の実践に移すべく自己研鑽に励んでおります。

②「奉仕の実践」の現状について（２）

- 28 クラブの社会奉仕活動にしても国際奉仕活動にしても委員会の一部のメンバーでの活動に依存している場合がほとんどであるが、出来るだけ多くのクラブ会員との接点が生まれるような仕掛けが必要のように思われます。
- 29 程ほどに実践していると思っています。
- 30 私事になりますが３年前に食道がんにかかり入院、手術に１５時間かかりました。その時の担当医師の患者にたいする対応がすばらしく感動し感謝しました。医師は患者のために私欲を捨てて対応してくれました。まさに１５時間も手術を続けるのは体力も気力も必要で大変なことであり感動した。手術するために毎日体力を鍛えているようで、まさに職業を通して奉仕していると思いロータリー哲学と思った。
- 31 自分も職業を通しての奉仕は、各個人がそれぞれ実践しているが、それ以外の奉仕についても、各個人の意識レベルにより一概には何とも言えない。新入会員では、各年度で委員会配属等により実践されていくものと考ええる。
- 32 当クラブでは４０歳代・５０歳代の会員が３分の１を占める。入会５年目以内の者も多いが、ベテランの方々よりむしろ若い者たちの方が黙々と実践しているように思われる。（ベテランの方はロータリー精神がどうのこうのと言ひ、なかなか事が始まらない）物事は始めなければ先へは進まない。
- 33 奉仕は相互扶助の精神。
- 34 全会員は、必ずどこかの委員会に所属し、財団などへの寄附や、クラブ運営に寄与し、またクラブ員同士職業交流及び個人的交流を深めることにより職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の実践を行っている。
- 35 個人では出来ないような奉仕活動をロータリーの仲間と実践することで新しい価値観や大きな達成感を得たという声が上がっています。
- 36 通常のロータリー活動をしている＝「奉仕活動」をしている。一般にはそんな感覚で満足しているロータリアンが多いと思われます。「実践を通じて人生が変わった」そんな機会になかなかめぐり会えないのが現状と思われます。「ノーネクタイでいこう」という提案には基本的に賛成です。ネクタイは身だしなみの一部です。する、しないは、本人の判断で…。
- 37 私どものクラブでは４年前から、都会の子と農村の子との交流を計り、農村の子には都会を、都会の子には自然を…っていいなあと思っていただくために〇〇小学校の４年生を農業体験のため、〇〇小学校の全児童と一緒に田植え、稲刈りを続けてきた結果父兄の間でも交流が深まり、本年以降も継続をお願いされています。
- 38 大澤ガバナーの「ノーネクタイ」は高齢化のロータリーの現状にマッチした勇気ある行動です。私も実践させてもらっており、数名になってきています。
- 39 ロータリークラブに入会し、例会に出席することで「奉仕の実践」はある程度なされていると思いますが、それ以上の「実践」は本人の自覚と啓蒙によるところ大であると認識しています。
- 40 I serveの職業奉仕の考え方からすれば、ロータリアン一人一人が職業を通じて社会に奉仕するということになるが、最近では食品偽装、某公益法人会長をはじめロータリーパッチをつけて釈明会見をするロータリアンを目にします。奉仕の実践についてはI serveの職業奉仕はほめられたものではないといえます。このような現状を他山の石として、私自身は職業奉仕に励みたいと思います。
- We serveの社会奉仕は、いまや我が世の春を迎えており、職業奉仕の精神がこのていらくではロータリーとライオンズのどこが違うのかという質問がでるのもうなずけます。私どもクラブでは、参加人数１０００名を超える１８のボランティア団体からなるＲＣＣ活動の後援など地域密着型の活動をしています。昨今の数は力なり、奉仕金額は力なりというロータリー財団主導のＷＣＳ的活動に違和感を感じています。

-
- 41 ローターリーでは「超我の奉仕」を第一標語とし、第二標語として「最も奉仕するもの、最も多く報いられる」という標語はまさに「奉仕の実践」の究極の姿であると考えております。現状において「超我の奉仕」を完全
に実践しているロータリアンは多いとはいえないが、ロータリアンの主要な役職を経験した会長経験者、地区出
向者等々はロータリアンへの理解が深い人々である。当クラブでは本年度「ポリオ撲滅に協力」「創立30周年記
念事業を成功させる」「クラブ定款・細則についてのクラブフォーラム」を予定しております。
-
- 42 「奉仕」について会員の意見を聞くと大半の方は理解し、ロータリアンの義務として奉仕活動に参加しなけれ
ばならないという意識が強いと感じられる。しかし個人として自ら「奉仕」をすとかまえて考えるのではなく、日
常の生活の中でちょっとした「今日はいい事したなあ」程度の参加意識ではないだろうか。会長・幹事・担当委員
長のリーダーシップでクラブとしての「奉仕活動」に参加することで充実感を得ているのが現状である。
-
- 43 クラブに入会し例会に出席しそれを重ねる過程において親睦を図り、その延長線上にクラブ奉仕の種々の実
践があると先輩に教えられています。私どものクラブでは「530運動」「植樹計画」等々に参加し経験する事
が奉仕の実践かなと思います。
-
- 44 充分に実践されているとはいえませんが、方向的には間違えずに進んでいると思います。
-
- 45 ・ベトナム口唇口蓋医療援助
・駐在所署員、夫人に感謝状
・市内、権現の森清掃、汐川、滑谷川清掃活動実行委員会に支援
・会員の活動が地域との結びつきや育てる面に欠けていると思う。
-
- 46 他のクラブの会員でもこれこそロータリアンという会員がいればゲストスピーカーに招き体験談、ロータリー
観、人生哲学などをご教示していただける機会を設定していきたい。
今年度地区大澤ガバナーのノーネクタイでいこうにも賛同しますが、あくまで服装は個人の自由であるべき
ものなので各人の自由に任せたい。クラブのマンパワー、構成会員からみてCLPは是非施行していきたい。
-
- 47 共利（他利でなく）に努めたいと思う。
-
- 48 ・アイサーブ
・例会席は日ごとに変更して指定席、コミュニケーションをとっている
・人事面においてパスト会長を親睦委員会に配属したりしている
・7月8月、翌年6月はエコを考えてノーネクタイを実施している。
-
- 49 「奉仕の実践」については、当クラブ会員の中でロータリー哲学を実践していると意識して実践している方は
少ないと思われます。ただ、各個人としては地域の中で多くの方が奉仕活動を行って見えます。これをクラブ
全体として調査し、認識していませんのでこの点は改善の必要があると思われます。
-
- 50 「哲学」と同様に「決議23-34」の中にも「奉仕の実践理論」が述べられている。またクラブとしてもお
おいにこの教を説ように…としてあるが、クラブ内ではそれに触れることは少ない。当然実践としての現状
はいかがであるか？
-
- 51 当クラブの本年度における会長指針によるテーマ「みんなで奉仕を実感しよう」
1、親睦 2、新世代育成と交流 3、環境保全の理解と実践 4、会員増強
-
- 52 おおきなイベントを認識されている方が多く見られます。実際に奉仕活動をしてみたいのですが、何から手
をつけていいのやら分からない。他の人の奉仕活動でよかれと思う活動には積極的に協力したい。クラブで決
めた奉仕活動には参加する。

②「奉仕の実践」の現状について（３）

- 53 奉仕の実践においては昨年の会長方針が環境を重視していた関係で、例会はマイ箸持参で行われていたり、省エネカーに買い換えたりされている方が増えてきました。ごみゼロ運動への毎年の参加など環境への意識が強いクラブだと思います。
- 54 クラブ奉仕については当クラブも自分もやれていると思っております。ただ「社会奉仕」「国際奉仕」は汗をかいてないと思います。
- 55 厳しい経済下が続く中、会員各位が事業や生活環境の中でロータリー精神の真髄をもって行動することが肝要である。
- 56 昭和36年度より当クラブ独自で市内3高校の高校生に奨学金を贈呈。延べ78名進学奨励金交付、延べ48名奨学生のなかから数名のロータリアンが誕生している。
- 57 長年の慣習、各クラブの歴史に基づき全員参加で行うこと。
- 58 三河湾、佐久島海岸の清掃作業を夫人共々実施しております。ペットボトルキャップの回収。一色用排水路の浄化提言。
- 59 「実践」は多種の職業専門家の集まり、その職業の実践をしている以上、まず職業奉仕の実践は果たされているはずです。ただし、「四つのテスト」の意味等に照らし合わせてその実践の方向性が妥当なものかどうかの評価は難しいものです。
意識した「他利」は、はたして偽善ではないでしょうか。
- 60 現状は「難しいこと言うな」これに尽きる親睦であるが、こうした席上で通常の例会では知らなかった仲間の会員の嬉しい発見や心に残る深い感銘など予期しないこともあり「親睦」はあくまでも会員相互の友情を深めることと思うことに特に違和感はない。
- 61 本クラブの活動は例年通りの内容を例年とおりに行っているのが現状でした。しかし、本年度は、クラブ内の委員会活動の活性化を図るため、CLPを導入しました。まず形からでもと思い委員会構成を変えました。結果的にクラブ奉仕委員会の内容が他に分割され活動することになってしまいました。今まであまりというか殆ど開催されなかった委員会を例会の時間を使って行うように企画しました。結果はまだ目に見えるような状態ではありませんがロータリー活動が活性化することを目指し頑張っています。
- 62 CLP…持続性の重視。 新入会員の委員会配属についての配慮。
- 63 20名たらずの小さなクラブのため、身の丈にあった奉仕の実践を心がける。
各自に与えられた範囲での奉仕に集中して体験しながら勉強している。
- 64 会員の自然的な意思にもとづく奉仕の実践が遂行されていくためにはクラブ全体のもつ雰囲気が重要であり、良好な雰囲気の中で数時間を過ごせば自然に「奉仕の定義」ができるロータリアンになっていくものと思います。人の良好な雰囲気とは奉仕に関する話を聞くといったものではなく高い職業倫理をもった紳士のあつまりが自然に醸し出す雰囲気であると考えられます。
- 65 今まで気にしていなかった奉仕・事業等、やってよかったと思う。昨年度よりCLPを導入。少人数で負担のかからないロータリー活動を実行。
- 66 当クラブでは「RC＝職業奉仕」との認識が強く、「奉仕＝個人の職業奉仕」の段階に留まっているように思います。

67 ここ2～3年壁面緑化事業を各会員企業にて実践。会員の環境意識は高い方であると感じている。

68 前の会長は我々のクラブは存在そのものに価値があると言われていました。

69 ロータリーは、ポリオプラスの活動を通じて世界に大きな貢献をしてきました。これからは全ロータリアンが力を結集して地球環境問題に取り組むことが次世代のために一番必要事と考えます。勿論宇宙環境も含めてです。

③「親睦」について）（１）

- 1 会員の相互理解と親睦があってこそ疲れないロータリー活動ができると考えます。
- 2 具体的な例会においては「親睦」が最重要な観点とほぼ全員が認識していると思います。
フォーラムや情報集会等では、深酒にならない程度のアルコールはOKです。
例会運営においても、席順くじ引き等によってコミュニケーションが偏らないよう工夫している。
- 3 時には酒の席で会員同士が語り合う事も必要である。
例会時以外の「親睦」の方がより一層の「輪」を広めることができ、退会防止策にもなる
- 4 当RCは、会員拡大と親睦は大変重視している。
- 5 酒気を帯び議論をする必要はないのでは。酒呑んでまでロータリーの話はしたくない。呑むことには大賛成。
- 6 年齢差、人生観、考え方等々人にはいろいろある。親睦は多少のアルコールがあれば本音が語れるがあまり多いと問題あり。
- 7 人と人の集まりであり、研鑽と共に会員相互の信頼関係を築く手段として「親睦」が必要と考えます。
地区委員長は、「純粋な親睦と感性的な親睦」を定義されており、「純粋な親睦」だけがロータリーの親睦と定義されておられますが、親睦の方法は、各クラブによって特長があってよいと思います。地域やそのクラブの歴史や伝統によっていろいろな親睦があると思います。
- 8 ロータリーに入会することで、奉仕活動の意識は増幅されてきてはいるが、やはり過半数の会員は親睦と異業種交流を重視しています。最終目的は奉仕であっても、車の両輪である親睦は必要であり、友情と親睦に満ち、参加しやすく明るく活力のある雰囲気作りが、退会防止と会員増強の原点であると思います。
- 9 親睦は本組織の潤滑油としての基本本質です。
- 10 あらゆる活動の原点は「親睦」。集いあい、語り合い、親しみ合い、理解しあう（特に自分との違いを理解）全てここから始まる。
- 11 春の家族旅行とクリスマス家族会を主体として親睦活動をしております。また、本年は創立60周年式典にクリスマス家族会をくりあげて家族と60周年をお祝いいたします。
- 12 特に楽しくやっています。
- 13 ロータリーの例会は親睦を重点とした心豊かな演出や気配りが重要であり、CLPを盾に会員の育成を実施し、親睦に対する会員の意識向上を図りクラブ運営を行っている。
- 14 親睦が重要な目的との認識は多くのロータリアンに存在していることも現状であり、特に新入会員が不安のなか入会されても、この目的によりロータリー活動を継続されていることは大いに理解できることです。
ただ親睦とロータリー教育は二律背反する面もあり、同時進行の度が過ぎると新入会員に対する負担となってしまうこともあるのではないのでしょうか。
- 15 会員は毎週例会に出席し有用な職業から選ばれた会員との会話等友情を深め自己改善を図りロータリーのすばらしさを実感する。
「老・壮・青」年齢を超えて色々な形で親睦活動はしています。
- 16 ロータリー活動は、まず和を持って集い、様々な情報を持ち帰り、職業を通じて奉仕していくことからすれば、親睦はロータリー活動の原点である。ロータリアン同士の語らいの場を増やすことは当然活力と奉仕に繋がる。

-
- 17 ロータリーには本来沢山の楽しみがあります。自己の業界、趣味、知識を超えた多くの友人や知り合いが出来ます。例会を始め他のクラブとの交流や地区大会にも新しい発見があります。思い切って積極的に友人を作ってください。新しい会員は例会だけではなくあらゆる機会を捉えて親睦活動に参加することでクラブの中に本当の楽しさが見つけられます。
-
- 18 ロータリーの会合である例会ではクラブの効果的な運営のために、ロータリーの原点を見つめ、魅力ある例会にするためにはどのように取り組むか議論をします。親睦活動が会員同士が一層の理解を深めるとともに、家族の皆様に参加していただけるプログラムを支援します。
-
- 19 ロータリーを超えての親睦に徹している。
-
- 20 和気あいあいムードの中会員と会員家族の友情と信頼を深める親睦会の開催をする。
夜間例会 4 回、家族会 2 回
-
- 21 必要なことであり、少ない会員が 1 つになるためには家族を含めた親睦を行うこと。
-
- 22 いろいろなニーズがあるが、過剰にならないよう有志制が妥当と思います。
-
- 23 楽しく有益で友情の広がる親睦活動を行ない、より多くの会員が参加できるようにする事が良いと思います。
-
- 24 奉仕は親睦がその原動力であることは言を待ちませんが、当クラブでは、例会、委員会とそのグループの活動に親睦の場を設ける以外に会員共通の趣味を図っています。現在活動中の趣味の会は、ゴルフ、カラオケ、グルメ、囲碁、邦楽、美術鑑賞、音楽鑑賞、競馬、カメラ、俳句に関するものまで 9 つを数え、それぞれに活発に活動しています。現在趣味の会に所属する会員数は述べ 213 名を数え、一人がおおよそ 2 つの趣味の会に所属していることになります。
-
- 25 ロータリアンは先輩、後輩間は平等から成り立っておりますから、お互いに思いやりの精神で親睦を計り、種々は行事を実行しております。
-
- 26 まずはお互いに気心が知れた間柄になることが肝心です。その仕掛けとして昨年度より同好会活動をクラブとして積極的に支援を始め現在 22 の同好会が活動中で、クラブの例会の雰囲気はかなり変わってきています。
-
- 27 ほどほどに親睦していると思います。
-
- 28 会を継続するにおいて大事なことは会員の意欲と増加だと考え、それを達成するには会員との親睦が大切であるし、その為に例えばゴルフ・酒・囲碁の集まり等々、またロータリーの本質について話したりすることが必要であり私達のクラブが会員を引き付けるに足る確固たる体質を備えるには親睦が必要である。
-
- 29 楽しくなければロータリーでないという考えで「親睦」をとらえている。
-
- 30 会合と親睦については別件と考える。会員同士だけでなく、家族や社員を含めた親睦活動を実践している。
-
- 31 会員の職業等を通じての情報交換の場、或いはディスカッションの場であり、その形式にとらわれる必要はないと思います。
-
- 32 普段は交流のない異業種の職業や違う世代の人たちと親睦を重ねることにより、貴重な意見を聞くことができ視野が広がったと感じます。
-
- 33 昨年度当クラブの会長テーマは、「和気藹々」でした。親睦は、クラブとしても退会防止に繋がると思います。

③「親睦」について (2)

- 34 ロータリーの原動力の一つは親睦である。会員同士の深いつながりと理解と信頼がなければロータリー活動はなりたない。同時に会員家族の理解が得られなければ、会員の行動も制限され活動が萎縮してしまうのではないだろうか。ロータリーは色々な職業人の集まりであり、年齢構成もさまざまであり、まして性格にいたっては多種多彩で一朝一夕では理解と信頼を得る人間関係を結びにくい中で、アルコールの効用は無視できないものであると信じている。新人のがっかり退会については各個人の問題ですのでわかりません。
- 35 お酒を呑んだ例会では会員同士がうちとけて仲間意識が倍増します。
- 36 当クラブの親睦は満足しています。
「酒気帯びで議論してはならない」とは知りませんでした。
- 37 日頃の委員会活動・各種交歓会（旅行・家族会等）の中でお互いに理解しあう親睦ができていると思います。
- 38 例会出席し、ロータリアン同士の深い絆・信頼を育み、自分の足らざるところを他のロータリアンから学ぶという純粋親睦。そして例会以外の趣味の会、ロータリアンの企画する有志の会への参加、どちらも両輪であり、そのバランスが重要であると考えます。
- 39 ロータリーの綱領の第一に「奉仕の機会として知り合いを広めること」とあります。「親睦」はまさに創設理由そのものであると同時に現在でも重要な意義をもっているものである。当クラブでは「明るく楽しい例会」作りがクラブ創立以来のポリシーであり7月親睦例会、12月クリスマス家族会、上期納会、1月創立記念例会、4月春の家族会、5月創立30周年記念式典、5月下旬納会等を予定しています。また、海外姉妹クラブ、国内友好クラブとの交流を行っています。
- 40 「親睦」はロータリークラブを進行させる動力源であるといわれているとおり大変重要である。楽しいロータリークラブの条件はまず「親睦」によって会員相互のコミュニケーションを深め例会に参加することが楽しくなる。「奉仕活動」に参加することによってロータリアンとしての満足を得られることであると考えられる。時には酒を呑みながら「奉仕」について議論することも良いと思う。
- 41 私どもクラブが一番大切にしてきましたのが「親睦」であります。創立50余年…、毎年の大きなテーマとして取り組んでおります。他のクラブさんのご意見を参考にさせていただきたく存じます。
- 42 会員同士・家族同士の交流という面での親睦は大変うまく行っていると思います。
- 43 ・クラブ内親睦例会を年3回を4回とし家族ともどもに（家族の参加が少ない）
・各委員会ごとの親睦は年間一人3,000円補助
・ゴルフ年6回（自由参加）
※会に入会して途中退会は少なく、現状は若い人たちが頑張って会の運営ができています。
- 44 親睦はロータリークラブの様々な活動になくてはならないもの。極力会員、会員の皆さんを交えた親睦をおこない会員の心と心を通じた親睦を基盤として小さなクラブながら地域に根ざした奉仕活動をしていきたい。お酒を帯びての激論も結構と考えます。
- 45 参加してよかった。参加してよかったといえる企画を。
例えば、①一泊親睦家族旅行 ②年忘れ家族親睦例会 ③新年宴会 ④日帰り親睦家族旅行
- 46 親睦活動については本年度も会の活動として重視し、親睦例会を1回増加して年4回行なう計画をしています。昨年度においても親睦例会への出席率は通常例会の時の出席率より高い場合も多く、また自由な時間も多いい中で会員間の会話量が増えており効果は上がっていると思われます。

- 47 本年度、当クラブでは親睦活動委員会のみに、各会員間の親睦を頼らず、各委員会数を減らすことによって、各委員会会員数の増員を図った。そして委員会の開催促進により委員会による委員同士の親睦がおのずと発生することを期待している。効果もあがってきている。
- 48 親睦活動の分野を大別すると、1、会員相互 2、来訪者 3、他クラブ 4、家族となりますが、当クラブが今年度最も重要とするところは会員相互の親睦と家族との交流であります。夜間例会をはじめ多くのご家族が参加しやすい事業を企画し、大いに親睦をはかりたいと思います。岡崎公園での夜桜花見例会も企画しています。
- 49 ロータリー活動はまず親睦からと考えます。アンケートの全てもクラブ内での親睦活動を快くとらえています。人と人との出会いを通して協力しあう体制をつくり、ロータリー活動を基本的に「楽しく」、活発に行っていく原動力になるものであり、必要不可欠のものであると思います。
- 50 同好会がたくさんあることは前に触れましたが、49人のメンバーに対して7つの同好会があり、概ね活発に活動しています。
同好会に入って新入会員は退会が少ないように思えます。一泊例会も参加者はメンバー数の割りは多いほうだと思います。
- 51 毎年「親睦委員会」のアイディアでクラブとしての親睦活動は充実しています。(私だけの意見かもしれませんが)。会員同士の交流も活発です。「難しいこと言うな」「がっかり退会」は見聞したことはありません。
- 52 例会又は例会以外にも家族が参加できる機会又酒席の会を増やしたいと思っています。
- 53 ロータリーは必ず親睦です。酒のでのる例会は歓迎です。当クラブでは今年度7回酒のでのる例会が予定されています。
- 54 仲よく楽しく活動する。
- 55 少人数クラブのため夫人同伴例会を多く開き親睦につとめる。和も第一と考え、夜間例会は効果大です。
- 56 酒気を運びようがしらふであろうが、議論してはならないという道理はないのではないのでしょうか。もっとも、酒に飲まれている人が議論をすることは不可能とも思われますが…。親睦のためにいくつかの同好会(ゴルフ・絵画・読書…)を立ち上げましたが、充実した親睦こそが難しい議論のできる土壌と考えています。
- 57 現状は「難しいこと言うな」これに尽きる親睦であるが、こうした席上で通常の例会では知らなかった仲間の会員の嬉しい発見や、心に残る深い感銘など予期しないこともあり、「親睦」はあくまでも会員相互の友情を深めることと思うに特に違和感はない。
- 58 親睦についてはロータリークラブ会員同士において大切なことだと思っています。先にも述べたように、私どものクラブでは会員数が少ないが故に、お互いに人柄が分かりあえるのではないかと考えています。そのようなことからお酒を飲みながらの機会も多く、特にその事にこだわってはいません。
- 59 新人の退会→反省の機会を持つこと。
- 60 入会に際して、それぞれの動機があると思いますが同じロータリアンとして共通した想いを大切に一人一人の人間としてお互いに尊重しあいながら接する。
例会以外に5～10人位で食事会を開き、特に新入会員の方々を誘い親睦をはかるようにしています。

③「親睦」について）（３）

- 61 例会前の約３０分間は様々な方々と気楽に会合ができる素晴らしい時間です。又、委員長、副委員長の間柄は一緒になってロータリー活動を行なうというプロセスを通じて親しくなれるものです。クラブが行う親睦活動は家族同伴での忘年会等で充分であると考えます。
- 62 まず、楽しく活動することが第一と思います。当クラブは本年度「親睦」を重点にしている。メーキャップを兼ねて親睦旅行を行う。（昨年度は久米島ＲＣ、・本年度は函館ＲＣ予定）
- 63 当クラブでは、「職業奉仕」の次に「親睦活動」に重点が置かれているように思います。しかしながら個人的な友人関係が強いせいか新人が入る余地は狭いように思います。
- 64 全く友人のいない中に入ってくる会員については声掛けをしたり、気の合いそうな人に面倒をみてもらったりして、相当に気を使っています。親睦については「がっかり退会」などなく、非常に上手にしていると思っています。
今回自発的に読書クラブを発会しました。
- 65 人の集まりの会は必ず親睦が第一と考えています。
- 66 ロータリーに入会して一番良かった事は、一生付き合える友が出来たことだと思います。葬儀で線香を上げてくれるのもロータリーの友です。死ぬまで退会せずロータリアンでいたいと思います。

--

④ 疲れないロータリー活動（哲学を超えて）について（１）

- 1 判り易いクラブ運営が大切と考えます。
- 2 回答が大変難しいです。
クラブとして将来の方向性についてやや停滞している面もあると思いますが、各クラブ員が「疲れている」というような状況はほぼないと思っています。
- 3 仕事多忙な年代の多いロータリーには仕事時間を割いてまでロータリーに参加出来ない人がいる。ロータリー活動の「利点」を見出させる事で会員が疲れを上回る「価値」を見つけられるのでは。
- 4 ロータリークラブに所属することで、より規律規範が高まっていると感じられる。
- 5 平均年齢は50歳台後半と思われます。議論・行動・活動により疲弊したくありません。参加して楽しい心地よい疲労感程度が良いと思います。むつかしい事言わず価値を求めないことを望みます。
- 6 ？
- 7 「疲れないロータリー活動（哲学を超えて）」の意味がよく理解できません。地区の委員会では、哲学の定義とこのような言葉の語句についての解説をお願いします。
このアンケートの趣旨が、どのような答えを期待しているのか、よく分かりません。
ロータリークラブの活動は、人が運営する組織ですのでいろいろな問題が発生すると思います。
プラス思考でアンケートをまとめたなら如何ですか？
マイナス思考でまとめると、多くのクラブが会員の減少、魅力の無さ、活動のマンネリ化、固定費の増大、先輩の後輩いじめ指導（若い人を育てるのではなく）、地区・R1への固定費の増大に悩んでいます。
対策として、理念を共有して、地域性や文化に適したロータリー活動「奉仕の実践」を行えばよいと思います。もっと、ロータリークラブを難しく考えないで、楽しい集団にすれば、奉仕の実践がスムーズにできるのではないのでしょうか？
クラブが主体であって、地区やR1が指導する時代から変化すべきではないのでしょうか？
以上の内容については、個人的見解です。
- 8 当クラブは、ロータリー綱領を遵守し、クラブ創立の「楽しい例会・待ち遠しい例会」がクラブの目標精神で、今年度の会長方針のクラブテーマは「和をたいせつに」となっています。ロータリー活動が疲れる活動（クラブ）になれば、クラブからの退会者が続出し、クラブの存続問題となり、絶対に避けるべきと考えます。
- 9 疲れてきている会員が多くなっています。経年の積み重なった継続行事、会員の相互負担など地区への招聘行事、委員会など負担で疲れています。メイクカードは意味ありません。この負担感は異常な感情でしょうか？
- 10 趣味共通の場合
例会運営の充実→仲間と会う日が待ち遠しい、例会前の30分、例会後の30分まで魅力あるものとする。
- 11 毎週の例会を楽しく出席できますように心がけております。

楽しいから疲れない
- 12 単なるマニュアルに頼るプログラムに留まらず、対話と体験を重視して活動する。
奉仕することにより得られた結果、ある意味での「達成感」を感じ取ることは哲学を超えることではないでしょうか。そのために、活動の企画から、実行準備、実践行動、そして活動終了の一連のプロセスを経験することによりこの達成感が得られると考えます。ただし、ロータリアンによる負担回避行動も否定できない事実があります。
- 13 奉仕活動と親睦活動を活用し楽しいクラブを運営する。

-
- 14 当クラブは身の丈にあわせ出来る限り可能なロータリー活動をしてきました。その中でロータリー活動に疲れる・疲れないという選択は私共のクラブにはありません。
-
- 15 ロータリーの考え方を敷衍していくことが大切である。後は気負うことなく、自ずと個々が職業を通して奉仕に気持ちが向かっていけばよい。
-
- 16 会員はそれぞれが大切な時間を割きロータリーの例会や活動に参加しています。自己の業界とは全く関係のなかった各業界を代表する立派な人たちと知り合いになれることとはそれだけでも価値のある良い成果だと思います。
あまり気負わず平常心で例会やロータリー活動に参加したいものです。
-
- 17 ガバナー月信の電子化により私をはじめIT識字率向上が望まれ受信できるようIT勉強会を始めます。これは「疲労を上回る価値」に繋がると 생각합니다。
-
- 18 身の丈にあった活動でいいと思う。
-
- 19 クラブテーマ「例会を楽しもう」そして大切にしようという事で例会はメンバーを基本に、又地元地域の方々に卓話をお願いして会員の資質向上に努める。食事についても楽しい食事に努め情報交換の場所を提供する。
-
- 20 身の丈にあった中で、無理をしない、強制しないようにすること。
-
- 21 ロータリーが自己の人生を豊かにするか？多くの素晴らしい友人との出会い、奉仕による感動、非常に個人的な、要するにアイサーブ。疲れるとは義務感の重圧ではないか。
-
- 22 友好的な雰囲気の中で気軽に自然体で奉仕活動が出来るようにして行けたらよいと思います。
-
- 23 ロータリー活動で疲れていては本末転倒です。必ず明日につながる、むしろ元気をもらう活動を心がけています。
-
- 24 ロータリアンは先輩・後輩間は平等から成り立っておりますから、お互いに思いやり精神で親睦をはかり、種々な行事を実行しております。
-
- 25 当たり前のことですが、さまざまな考え方の会員がいます。
先ずはあまり無理しないことだと思います。
-
- 26 仕事より、熱心にロータリー活動をと要求されると疲れます。ほどほどが一番。
-
- 27 いろいろな委員会での活動や奉仕の実態など疲れることが多いが、その結果人生が豊かになり別人のように変わることもあり、満足で豊かな気持ちになる。こういう時にはロータリーの魔術を感じるがあります
-
- 28 それぞれが、それなりの役職にある人たちがばかりの集団であり、上下関係がないのが本来であるが、どうしても、ロータリー命の先輩諸氏の小言意見がはこびることが疲れる最大の原因だと考える。しかしそれも必要なことであり、むづかしい問題である。故に新入会員のロータリーを理解されるまでの期間を、ゆとりを持って大きい心でやさしく接してあげることが重要であると考えている。
-
- 29 「疲労」は自分に負担が大きくなった時に感じますが、個々の活動の意味を考えると、ロータリーならではの価値の元でその成果があります。従って、価値を考えた上で活動を有意義に実践することにより、「疲れた」ではなく、「充実した」時間を過ごしたと思うことができるように、ロータリー活動を行ないたいと考えています。

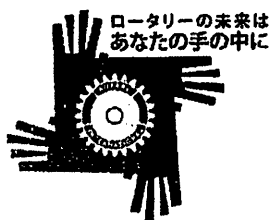
④ 疲れないうロータリー活動（哲学を超えて）について（２）

- 30 現在行っているロータリー活動が、自分のためであり、地域社会のためでもあり、また将来の世界に大きく貢献しうる活動である事を認識し、実感出来れば、ロータリーの活動も楽しいものとなると思います。
- 31 私は気分転換のために毎回参加しております。9年間続いたホーム連続出席もついに、先日途絶えてしまいましたが、今年度より又誓いも新に100%出席を目指します。
- 32 職業による奉仕が疲れないうロータリー活動の基本であると思います。
- 33 疲れを感じるかどうかは、心の持ちようによって大きく異なります。いやいや参加すれば疲れを感じるでしょうし、進んで参加すれば疲れは感じないでしょう。とにかく例会に出席し、提供されるプログラムにはできる限り出席し、ロータリーの友は熟読する。ここまでやればロータリー活動を疲れるとは感じず、歴代ガバナーのようにロータリー活動を快感に変えることができると思います。世阿弥百選の中に「習いつつ 見てこそ習え 習わずに 良し悪しをいうは 愚かなりけり」という歌があります。とにかく関われば関わるほど、知れば知るほど、ロータリーを好きになるという先達の言葉を信じてロータリー活動に参加し続けるしか疲れをとる方法はないと思います。
- 34 疲れないうロータリー活動とは、まさに自然体で行うロータリー活動であると考えます。ロータリーにおいて仕事とロータリーの両立の問題があります。仕事の中にロータリーあり、ロータリーの中に仕事があるというのが理想ではありますが、なかなかこの域に達するのは難しいと思いますが、年を重ねながらゆっくりと理想に向かっていけばよいと考えております。
- 当クラブではクラブ奉仕委員会として、クラブ奉仕内の委員会の強力なる力を結集してクラブを活性化させるべく行動する予定です。そのためクラブ奉仕協議会（7月と1月）を年2回開催し委員長とコミュニケーションをとる予定です。
- 35 強制されて活動するのではなく、RIの中の1つのクラブとして恥ずかしくないように「活動」していく為に、会員相互がお互いを理解・尊重する。クラブとして決定された活動には各自すすんで参加、協力していく活動が実現されると、楽しくて疲れないう活動になる。その為の「親睦」が重要だと思う。
- 36 本年度は4月18日の2760地区協議会のホストクラブとして全員で成功に導きたく努力し汗をかき…参加いただいた地区会員の皆様が感動し喜んで帰っていただけるプログラムをと頑張っております。
- 今年度はクラブ全員が疲労を上回る充実した価値を見出せるような地区協議会になったらと存じます。
- 37 規模・クラブの活動内容・環境等、恵まれているクラブといえると思っています。50年を超えたクラブの歴史がより良い状況を育てていると思います。本年度、当クラブからは2人目のガバナーを出させていただいています。クラブにとっては新入会員・若手会員の成長の機会となり、有難いことだと考えています。
- 28 活動が毎年の繰り返しであり、上回る努力に欠ける当クラブでは新入会員、3～7年の会員がしっかり活動していると思う。
- 39 意味がよくわからない。
- そのような活動が哲学を認識しながら会員に適切な感銘を与えられるかについては難しい問題ですが、会員の反応を細かく観察しながら活動修正より無いと考えています。
- 40 本来もっとロータリー活動は、志を一つにした人たちの自由な集まりのはず、それがいつしか妙に出席率にこだわったり、なにか小さな重箱の隅をつつくような印象も…仕事で疲れていても週一度仲間と一緒に食事をして自分の知らない分野の知識を得ることで疲れが取れ新たなステップアップへとモチベーションが高まれば最高でしょう。
- モチベーション＝やる気＝ファイトがクラブの活性化にもプラス効果も…ロータリーはもっと自由度がすべての点であれば会員数も再び増加するのではないのでしょうか？

-
- 41 各事業の数や規模がそのキャパシティを超えうる感じに思われる。ロータリアンとしてその構成年齢相応のゆったりとしたその時の流れの速度と同レベルの活動を切に願う。
-
- 42 ポールハリスは例会に出席すると童心に帰ることが出来ると言われたそうであります。私どものロータリーの例会は職業分類に依って異業種の集まりであり、競争心も警戒心もなく、目上の人も家来も子分もない職業分類という点から皆んな平等であり、信用できる人ばかりの集いであるかであります。特別な気遣い等のない明るい楽しい和気あいのクラブであって欲しいと願うところであります。
-
- 43 夫々のアンケートの中には「世界的な奉仕活動については政治的な力は不可欠である」、「活動そのものより異業種の人々と共有する時間をすごせる事が大切であり、その為には多少の苦勞はいとわない」、など様々な意見がありました。現在のRCの方針とは多少ずれるのかも知れませんが、夫々の意見を尊重し、批判をせず、検討を重ねつつ活動をしていけばあまり重荷になるものではないと考えます。また、楽しい行事だけを取り上げるのもよろしいでしょうが、奉仕活動が必要と思います。
-
- 44 積極的に活動する人と、面倒なことは極力避ける人と両極端に分かれているようです。特にクラブ奉仕については、メンバーが同じ負担になれば理想ですが、積極的に活動されている一部のメンバーばかりに頼ってはられないので、現在は入会年度の浅いメンバーのオリエンテーションや、その他の勉強会などで新入教育を行っているところです。
-
- 45 ロータリー活動に疲れたことがないのでよく分かりません。
深く考えてロータリー活動をしてなかったのかも知れませんが、でも、ロータリークラブは居心地の良いところだと感じております。
-
- 46 クラブ内の“和”を醸造することにより、楽しめるロータリー活動にかえる。
-
- 47 勉強したいと思います。
会長経験者2名、哲学という文字を見るだけで疲勞を覚えます。
-
- 48 全員個々の感性、個性を重視する。
-
- 49 1 新入会員には委員会に2つ入っていただき雰囲気になれるようにする。
2 あまり無理な押し付けはしない
3 入会者以上にチャーターメンバー始め年齢的限界が退会者も多く困っています。社会情勢も悪すぎます。
-
- 50 疲れたり、苦勞したりしないことが本来だと考えています。傍目には苦勞しているように見えても、本人が「楽しくなるような」ロータリー活動が理想です。
-
- 51 有意義な例会、積極的に出席しようと思える例会づくりに努めることがまずは第一歩と考える。
自分がやりたいと思えることは時間や労力を消費しても疲れない。
ロータリー哲学という言葉にこれといった定義があるとは思っていません。会員それぞれの価値観や考え方があり、その事を押し付けるような事はあまり好ましくないと思っています。
お互いの考え方や事情を尊重しながら、その中でロータリー活動を行っていくべきだと考えています。
-
- 52 ロータリー活動 職業と年齢により自ら活動の領域を広げる努力。…広報が大切。
ニコボックスによる認識等。週報、ガバナー月信の重要性。
-
- 53 会員それぞれ自分達の置かれた条件、立場が違うとは思いますが自分達のクラブ、個人それぞれ自分の身の丈にあったロータリー活動を心がける。また、会員同士の助け合いをしながら自分の楽しいと思う範囲で行なう。無理が続くと疲れが増す。

④ 疲れないロータリー活動（哲学を超えて）について（3）

- 54 疲れてまでロータリー活動を行なうロータリアンがいるとしたら、それは役職に伴う責任を果たすための非自発的な活動に違いありません。疲れるほどのロータリー活動は退会者を増加させる結果、クラブの衰退に繋がると思います。自発的に楽しくロータリー活動を行えば疲れることはないはずで、ロータリー活動を通じた様々なロータリアンの高い職業倫理を感じ、自らの職業で研鑽をつめばよいと考えます。
- 55 一部の役員さんを除いて、会員間で「疲れる」という意識はないように思います。
- 56 会員を見回してみるとロータリー活動を苦痛に感じている者はあまり見当たりません。逆にリフレッシュの場、新鮮な場所と考えている会員が多いように感じます。
- 57 疲れるロータリーであつたら、ただちに退会していると思います。



2009年9月9日(水)

2009～2010年度国際ロータリー第2760地区
クラブ奉仕委員長会議

名鉄ニューグランドホテル
12:00～12:50 登録・食事
13:00～16:30 会議

次 第

司会 地区クラブ奉仕委員 糸井 学

- 13:00～ 1) 点 鐘 R・I・2760地区 地区クラブ奉仕委員長 藤原 研一
2) 本年度活動指針について
3) 来賓紹介
13:15～ 4) 挨拶 R・I・2760地区 カウンセラー 福田 清成
13:25～ 5) 挨拶 R・I・2760地区 ガバナー補佐 飯島 卓
13:30～ 6) 挨拶 R・I・2760地区 地区副幹事 山本 信利
13:35～13:45
7) 回答集から見るクラブの現況 地区クラブ奉仕委員 重富 亮

13:45～13:55

コーヒーブレイク
(10分程度)

- 司会 地区クラブ奉仕委員 水野 聖人
13:55～ 8) ワークショップのための問題提起 地区クラブ奉仕委員 天野 正明
14:05～ 9) ワークショップ
司会 地区クラブ奉仕委員 多田 通夫
15:05～ 10) 各テーブル報告
16:00～ 11) まとめ 第2760地区クラブ奉仕委員会カウンセラー 福田 清成
16:10 12) 点鐘 藤原 研一

(敬称略)

第2760地区「クラブ奉仕」の見解

地区クラブ奉仕委員会より

4月19日に名古屋国際会議場において開催されました国際ロータリー2009～2010年度地区協議会での第2分科会＜会長エレクト・副幹事・クラブ奉仕・会員増強・広報・R情報・R研修＞のテーマは「ロータリーの活性化」、サブテーマ：ロータリーをよく理解しようでした。

クラブの活性化には、先ず、ロータリーの哲学（ロータリークラブの活動の全体を貫く基本的な考え方と行為）を理解して勉強して欲しい、と委員長指針を示しました。

1、ロータリーの「哲学」とは

すなわち「ロータリーの奉仕理念」である。

公式文書「奉仕の理想」理念：「奉仕の理想」とは、

「人のことを思いやり、人のためにつくすこと」である。

2つの奉仕理念 ①奉仕哲学 超我の奉仕 Service above self

②実践倫理 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。

- － 決議23－34の第3条「奉仕する者は行動しなければならない」ロータリー哲学は実践哲学である。
- － ロータリーの奉仕とは、「人のためにつくすこと」。アーサー・F・シェルドン
- － ビジネスでも奉仕の心掛けは「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増すことで繁栄への道に繋がる。

★哲学とは：新カント派、論理実証主義、現象学など世界・人生の根本原理を追求する学問。認識論・倫理学・存在論などを部門として含む。俗に、経験などから築き上げた人生観・世界観。また、全体を貫く基本的な考え方。哲学的とは、哲学するように思考・行動するさま。

実際的な規準：規範・標準とするもの。信仰・思惟・評価・行為などの則るべき範例・規則・規範（広辞苑より）

2、クラブ奉仕「クラブサービス」とは？

綱領（クラブ奉仕に関する）：奉仕の機会として知り合いを広めること。

★綱領とは：①物事の大切なところ。眼目。②政党・労働組合などの団体の立場・目的計画・方針または運動の順序・規範などを要約して列挙したもの。（広辞苑より）

手続要覧：ロータリーの第一奉仕部門。クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。

定款（クラブ奉仕に関する）：例会への出席・親睦の保持・プログラムに参加など、クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動。

★例会への出席とは：（例会は人生の道場）：クラブ例会に出席して、事業上の発想の交換を通じて、お互いに切磋琢磨して奉仕理念を研鑽し、自己改善を図る。世のため人のために尽くす心、すなわち奉仕の心を作る。

米山梅吉の「ロータリーの例会は人生の道場」、アナハイムの国際協議会会場の入口には「入りて学び、出でて奉仕せよ」

★定款とは：会社・公益法人・協同組合その他一般に社団法人の目的・組織並びにその業務執行に関する基本規則。またそれを記載した文書。（広辞苑より）

親睦：純粹親睦：ロータリアン同士の深い信頼。自分の足らざるところを他のロータリアンから学ぶ姿勢。

感性的な親睦：ただ単に一杯飲んだりして楽しむだけ。

質：定款上の会員の条件は「善良なる成人で、職業上良い世評を受けている者」。いかにロータリーの奉仕理念を理解し、実践できるかが、ロータリアンの質を判断する基準となる。

3、結 論

例会出席から始まるクラブ奉仕は、クラブの全員がすべきことであり、ロータリーライフの基礎となる。従ってロータリーのロータリーたる所以はクラブ奉仕にある。

クラブ奉仕は、クラブの運営、管理、会務といった分野であるが、例会が奉仕の心を培う重要な場であることを思えば、単なる会務運営に止まらない意味をもっている。クラブ奉仕の意味を追求することが、他の奉仕への出発点或いは、原点であり、クラブ奉仕こそ、ロータリアンとロータリー運動にとって一番重要かつ本質的なものを含んでいるといえるのではないか。

職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕はクラブの外に向かって奉仕する目的を持っていて、いわば奉仕の方法論を問題にしますが、クラブ奉仕は会員の自己研鑽、理念の会得、倫理の高揚、相互理解と親睦、クラブの魅力の培育、会員の増強と維持などの大切な「内に向かっての奉仕」です。ロータリーの本質論を論じ、実践する自分のための奉仕です。(江崎P G)

「参 考」

①クラブとは：1、ロータリー運動の主役はクラブ

2、R I 定款、R I 細則、標準ロータリークラブ定款に記載されていること以外は、すべてクラブ自治権の範疇にある。

3、クラブ管理運営のほとんど、奉仕活動のすべてはクラブの自主性に任されている。

②クラブ細則について：推奨クラブ細則はあくまで推奨に過ぎない

1、委員会構成 2、奉仕活動実践の具体的目標

3、財務 4、会員選挙の方法 5、例会の運営方法

(クラブの実態に合わせて、毎年改定できる)

③四大奉仕とは：(標準ロータリー・クラブ定款より) ロータリークラブの活動の哲学的および実際の規範である

(その1) 第二奉仕部門は、職業奉仕「ボケイショナルサービス」。会員が職業の尊さと価値をクラブの他の会員に示す機会であるとともに、キャリア計画、職業研修、職場での高い道徳的水準の推進といったプロジェクトを実施するというクラブの責任でもある。

(その2) 第三奉仕部門は、社会奉仕「コミュニティサービス」。地域社会の人々の生活の質を高めるためにロータリアンが行う様々な活動。これには、ロータリーをより良い生活への希望の源とみなす青少年、高齢者、体の不自由な人々への支援などがしばしば含まれる。

(その3) 第四奉仕部門は、国際奉仕「インターナショナルサービス」。ロータリアンが国際理解、親善、平和を推進するために実施する数多くのプログラムや活動を包含する第四奉仕部門。多くの国際奉仕プロジェクトは、発展途上国の人道的ニーズを満たすことを目的とし、また、異なる国や、文化の人々に対する認識を培うことを助長する。

フォーラム趣旨

今回のフォーラムテーマ「ロータリー哲学」は、会員にとってどんな存在なのか、探求は中々難しいことは充分承知していますが、ロータリー運動の根幹に関わることもあるし、避けているのではなく、一度触れてみる機会も必要ではないかと考えます。皆で話し合い、さまざまな価値観に触れる（ロータリーの意義についての人それぞれの考え方を聞く）だけでいいのではないかと、欲を言えば話しあいの中から少しでもモチベーションが高まればと、ささやかな思いもあります。

「ロータリー哲学」は日常的には特に意識することはありません。ロータリー活動に於いても、いわゆる「大人の対応」で計れば見当外れなことにならないで済んでいます。また、人の気持ちをおしはかるといことも、気が付かないままに「ロータリー哲学」に添っているのかもしれません。

「ロータリー哲学」という語彙には何か重たい、避けたくなる響きを感じられます。「哲学」しなくても何も不足はありませんし、むしろ考えないほうが行動しやすく、肌合いに合っている気がします。しかしながら、研修会などに出席するたびに「奉仕せよ」「例会は人生の道場」「純粹親睦」といった命題が耳に残り、現実との差にストレスを感じることもあると思います。いくら立派な大義名分であっても、受身のままで上記の如き命題の下、時間、会費、購読など様々な要請を引き受けることは、長続きしませんし、息切れしてしまいます。

「親睦」についても同様で、「奉仕の理想を実践するために」必要な範疇というのが本来の趣旨であろうと思われませんが、仕事の息抜き、或いは社交の場となって様々なお付き合いが増えてしまうことは、ロータリーの理想に近付いていくことなのか、その判断に迷い、疲れてしまいます。安易に「親睦でコト足れり」と考えるようになってしまっただけはロータリーの理想は遠い存在になってしまいます。

それでは、成り行きとはいえ最早、莫大な投資になってしまったロータリーとのご縁に人生の意味を見出し、ロータリーの魅力を行く末の生きがいとするには、どうしたらいいのでしょうか？

我田引水ですが、原点に還れの言葉通り、迷った時は変わらないもの、普遍に戻るものが一つの方法ではないでしょうか。面倒臭くても、ロータリーの歴史を読み解き、議論を重ねて何かを見出さなければ、クラブに所属する意味が無いのではないかと思います。

幸い、ロータリーには100年を超えて多くの先輩が紡いで来た貴重な財産が有るはずで、その蓄積を辿ることは、即ち哲学に触れてくることにもなってきます。超ベテランロータリアンと共に、この取っ付き難いものを一度俎上に乗せて、何とか料理し、味わってみようではありませんか。

「今までに無くロータリーに正面から切り込んでみた」、本年度「地区クラブ奉仕委員長会議」がそんな場になれば誠に幸いです。

アンケート回答の御礼

この度のアンケート回答のご協力ありがとうございました。

新年度スタート時のお忙しい中での作業であったと推察いたします。

お送りいただきました回答表をできるだけ忠実に記すようにいたしましたが、紙面の関係上、皆様方からご記入いただきました内容を文意に沿って簡略させていただいた箇所もあります。誤字、脱字の非礼と併せましてご容赦の程、お願い申し上げます。

「奉仕の理想」を語り合うには、ロータリー哲学、ロータリー理念、ロータリーのおいたち(歴史)を避けて通ることはできません。

今回、お答えいただきました回答表からの内容には、多様化したロータリー観を垣間見ることができます。

クラブ奉仕委員会では単に方法論及び実例伝達だけではなく、ロータリーの貫かれた思想(ロータリーの本質)に触れる役割を地区クラブ奉仕委員会の見解として、ここ数年「地区協議会」「クラブ奉仕委員長会議」にて訴えてきました。

時代と共に大きく変わるロータリー、会員増強にともなうロータリアンの資質、それにともないロータリアンの世代間ギャップ、今、我々ロータリアンを取り巻く環境は様々な問題を浮かびあがらせています。「茶髪、ピアスを着けた男性ロータリアン」「面白くないロータリーなど、やめちゃうぞ」も今や現実であり、これらのハードルを乗り越えていく為に、ロータリアン一人ひとりの価値観を形成し、醸成するベースとしてロータリーが一貫として貫らぬいている「ロータリー哲学」について、クラブで語り合う必要があると考えています。それは

①、ロータリーの価値観をロータリーの枠内で語る。

②、個々のロータリー観を修正する。

に繋がってまいります。

先人ロータリアンは平和親睦を「やわらぎむつび」とルビを振りました。価値観に正解を求めるのではなく、実情に即した「最適解」を波風立てずに、仲むつまじく模索するということでもあります。ほんのささやかな小さな事かもしれませんが、そんな積み重ねが、ロータリークラブ会員として意気に感じる会員の増加の繋がると考えます。また今回は皆さんと一緒に語りあうすばらしい先輩を特別アドバイザーとしてお招きしております。皆さんと同じテーブルについていただき、同じテーマを平和親睦のロータリー精神で語り合ってください。おおいに学ぶことができる充実した時間になる事を確信し、今回の御礼とさせていただきます。

尚、この資料はクラブで活用していただく為に、見開きA3でコピー出来るようにして、右上に設問項目ごとの順序番号を表示してあります。
皆様方のクラブの発展に少しでも寄与できることを願います。

特別アドバイザーのご紹介

【順不同(事前の了解を得ずの掲載お許し願います)】

福田 清成 様	1936年12月22日 1981年 7月 1984年～1985年 1991年～1992年 1994年～1995年 1995年～1996年 1996年～1999年 2000年～2001年	生年月日 江南RC入会 クラブ副幹事／幹事 クラブ会長 地区米山記念奨学会委員 東尾張分区代理(ガバナー補佐) 地区財団学友会委員 ガバナー
---------	---	---

齋藤 直美 様	1938年11月10日 1979年 2月 2002年～2003年 2003年～2005年 2004年～2005年 2005年～2006年 2006年～2007年	生年月日 豊田RC入会 豊田RC会長 RI2760地区ロータリー財団奨学委員会委員 ガバナーノミニ ガバナーエレクト ガバナー
---------	--	---

江崎 柳節 様	1934年 7月 2日 1982年 2002年～2003年 2004年～2006年 2007年～2008年 2009年～	生年月日 小牧RC入会 小牧RC会長 地区クラブ奉仕委員長 ガバナー 国際ロータリー・ゾーン・チャレンジ・コーディネーター 国際ロータリー研修リーダー 国際ロータリー米山記念奨学会広報委員
---------	---	---

片山 主水 様	1939年11月17日 1972年 3月 1997年 2002年～2003年 2006年～2007年 2008年～2009年	生年月日 名古屋東南RC入会 地区幹事 地区クラブ奉仕委員長 西名古屋分区ガバナー補佐 ガバナー
---------	---	---

星川 直志 様	1934年 3月 24日 1981年 1981年～1982年 1984年～1985年 1995年～1996年 2000年～2001年 2005年～2006年	生年月日 名古屋名北RC入会(名古屋北RCより移籍) クラブ幹事 クラブ会長 地区ガバナー拡大補佐(エイド) 東名古屋分区ガバナー補佐 地区協議会実行委員長
---------	--	--

早川 八郎 様	1936 年 1 月 1 日	生年月日
	1964 年 4 月	春日井 RC 入会
	1973 年～1974 年	クラブ幹事
	1983 年～1984 年	クラブ会長
	1997 年～1998 年	東尾張分区代理 (ガバナー補佐)
	1998 年～1999 年	地区クラブ奉仕委員
	2001 年～2002 年	地区クラブ奉仕委員長
	2008 年～	地区ロータリー未来委員

関口 宗男 様	1938 年 12 月 2 日	生年月日
	1979 年	名古屋みなと RC 入会
	1986 年～1987 年	分区代理幹事
	1997 年～1998 年	クラブ会長
	2001 年～2004 年	地区職業奉仕委員長
	2005 年～2006 年	創立 40 周年実行委員長
	2008 年～	地区研修委員

國分 孝雄 様	1939 年 5 月 25 日	生年月日
	1979 年	名古屋和合 RC 入会
	2000 年～2005 年	地区環境保全委員長 (5 期)
	2001 年～2006 年	2005 年国際博委員
	2006 年～2007 年	名古屋和合 RC 会長
	2008 年～2009 年	東名古屋分区ガバナー補佐

鈴木 孝則 様	1942 年 11 月 17 日	生年月日
	1992 年～1993 年	地区幹事
	1995 年～1996 年	地区資金委員長
	1996 年～1998 年	地区青少年活動副委員長
	1999 年～2000 年	地区環境保全委員長
	2000 年～2001 年	あま RC 会長
	2003 年～2006 年	地区ロータリー財団委員長
	2007 年～2008 年	西尾張分区ガバナー補佐
	2007 年～2010 年	地区研修委員長

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（１）

- 1 2人のパストガバナーを輩出した当クラブでは入会后10数年クラブ協議会等で指導を受けてきました。疲れないロータリー活動、楽しいロータリー活動と相反する状況もありましたが、日々の生活の中でロータリーが重荷にならない様心掛けています。
- 2 大変難解な問いで答えに窮しますが、クラブ内でロータリー「哲学」や「本質」について、例会及び普段の会話においても議論されることは少ないように思います。
また新人に対しても明示的に教育をするというシステムも特にありません。
例会やさまざまなロータリーに関する書籍等によって、各ロータリアンが自らのロータリー観を確立することが肝要と思います。
- 3 ロータリー哲学と会員意識の距離を埋めるには判りやすい哲学の説明と万人に受け入れられる内容が必要。
- 4 ロータリーの哲学というより、本質について学びたいという意識が感じられる。
- 5 自分自身がまだ理解していない。
- 6 哲学などとむづかしいことを語らず又勉強せずとも、楽しく友愛を深めることが一番よいのでは？
地区委員長は「哲学」を「奉仕の哲学」と理解されているようですが、「奉仕について」をもっと分かりやすく、「他人にやさしい思いやりの心と実践」を時代に即した形で議論し、実践してゆくことが重要と思います。
クラブでは、昨年度末に三戸岡道夫氏著書の「米山梅吉の一生」をほとんどの会員に無償で配布。「利己のない精神」公益精神（報徳思想）の原点を学ぶ機会を与える。
地区の「哲学」に関する会員の意識と現状について、アンケートを実施しなかった。
- 7 入会動機は「何となく誘われて」といった無目的派が過半数を占め、入会目的があったとしても親睦（知人・友人・交流）目的が多く、ロータリーの究極目的である奉仕を入会動機としている会員は皆無に近い状況です。
- 8 ロータリー哲学と会員意識の距離
会員の多くが、人間関係のつながりの中、義理な感情の基ロータリークラブに入会在籍している方が多い。ロータリーの哲学等の本質を理解又は当クラブが実施している活動が、なぜ毎年実行するなどの背景まで理解できていないし、このロータリー理念とは関係なく年間行事として楽しいかどうかが各会員の主要な関心となっている。
本質について27名のクラブの中では、展開は困難さを伴い難しい。先輩の背中を見ながら展開していくOJTが主体とならざるを得ない。理論なのだろう？
- 9 学習の必要性は多くの会員の認めるところ。但し会員減少に伴い学習、本質を語る→堅苦しい→定着にマイナスとの考え方あり。
一方で本質を語り合わない、学習をしない、うわべのみの会話、つきあい→会員失望退会（特に志の高い会員）の事例あり。
- 10 クラブ風土について、当クラブは歴史と伝統に培われ、先輩からクラブの歴史を学び、クラブ活動がスムーズに運営されております。又、ビジターの方からは、例会が堅苦しく思われるかもしれません。
- 11 そんな事考えたこともありません。
- 12 「哲学」について現状クラブ内で十分な教育や論議が行われていないため、「哲学」を意識し理解していない会員が複数いるのが現状であり、今後は例会等で哲学について討議を行っていく予定。（新入会員には教育を行っている）。

-
- 13 ロータリー哲学については、年齢、会員歴、「哲学として理解」できるなど、会員それぞれのレベルに違いがあるように感じられます。
クラブ内においても会長の1年任期と、新入会員への教育・指導方法にも違いがありますが、若い会員ほど「哲学」としての意識が少ないように見受けられます。
また、哲学が社交の場か、あるいはロータリー会員としての優位的な立場などを討議するのか、新入会員への教育として継続するのか、1年限りの会長の選択に任されていることも現状ではないでしょうか。
-
- 14 クラブ奉仕プロジェクトを達成するために担当委員会相互の連携を計りながら奉仕活動と親睦活動の両輪をもってクラブの発展に寄与する。
-
- 15 創立50周年を迎える当クラブは会員のロータリアンとしての意識も高く、何の問題もなく活動しています。新入会員に対しては年間3回ほど「ロータリーとは」について学んでいます。
-
- 16 例えば、企業が自らの事業を営むに当たり、「経営理念」が必要であると同様に、ロータリーの活動においても「ロータリーの考え方を深く学んでいくことがとても大切である」と思っているロータリアンが多い。
反面、それをあまりにも強調すると会の中で浮いてしまし、と感じている会員もこれまた多い。
-
- 17 私にとってのロータリーとは、自己の道徳的な抑制により他人を思いやる寛容の精神の確立で人生の修行の道場と考えています。
新入会員や若い人たちを含めてロータリーについての勉強会をクラブ研修委員会で行っています。先輩のロータリアンが先生役となっています。
-
- 18 本年度大澤輝秀ガバナー方針として「職業奉仕がロータリーの基礎」と話して見えます。私共のクラブでは、2年程前に第一回職業フォーラムを開催してテーマは「職業奉仕を学ぶ」と「ロータリー哲学再発見」です。
テーマ1は、「純粋親睦と自己研鑽」についてメンバーが卓話
テーマ2は、「決議23-34」についてメンバーが卓話
テーマ3は、「四つのテスト」についてメンバーが卓話
事例として「職業奉仕—私の事例」2名の方の卓話
メンバーの「哲学」に対する意識はクラブがその問題にどう対峙するかということだと思います。
-
- 19 70歳以上のロータリー歴の長い会員と、50歳台までのロータリー歴の浅い会員とのギャップはかなりあると思う。
-
- 20 ロータリー情報委員会より最新情報を提供していただき、またロータリーの友からも情報をとり参考として勉強をする。
「哲学」について、超我の奉仕であり特に意識していません。
-
- 21 当クラブは、哲学というよりも身の丈に合った運営活動を行なうことが肝要である。
-
- 22 哲学とは何か？ロータリーとは何か？ロータリー観、ロータリーをそれほどつきつめて考えている会員は少ないと思う。
わがクラブにおいては「四つのテスト」そのものがロータリーであると、会員の意識を高めています。
-
- 23 基本的にはロータリーの綱領で充分であり、日常の活動の中で綱領を意識して実践していくことが大事だと思います。
-
- 24 ・ロータリー哲学は各クラブ独自のものであり、夫々のクラブで会員が共有するものと心得ます。当クラブでは、入会前から入会後もクラブの歴史、伝統と文化について啓蒙しています。
・前年度より正式入会推薦前に入会候補者は事前審査を実施。当クラブにふさわしい人物の入会を促しています。（「入会3年未満の会員は推薦者の資格がない」細則は堅持しています。）

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（２）

- ・新入会員はロータリー情報委員会任せではなく、クラブ奉仕委員会全体で支援しています。
- ・今年度は、会長方針で、私どものクラブのロータリー哲学ともいえる「職業奉仕」の理解と実践に活動の重点を置いています。

25 例会は立食例会を増加させて会員間のコミュニケーションを促進させれば相互の切磋琢磨となります。

26 ２年前よりチャレンジ１００特別委員会を設置して新会員が大幅に増加したことから、ロータリーに対しての勉強と理解を目的に各新会員にインストラクターをつけ、また新会員に対してのオリエンテーションを実施しているが非常に好評である。今後はある程度経験年数でグループを作ってすべての会員に対して勉強会を開催したいと考えています。

新会員の時にしっかりとした勉強システムでの経験があれば、「哲学」に対するアレルギーは起こりにくいと考えます。

27 特に、拒否反応は無いように思われます。分かりやすい内容ならゴーギャンの「我々はどこからきたのか。我々は何ものか、我々はどこに行くのか」をもじって、我々をロータリーに置き換える程度です。

28 哲学に関する会員の意識は、現状は会員がおたがいに接触したり、他クラブの活動を見たりして会員の意識はかなりあると思うが、それほど強くないと思う。それで自分は大学時代の先生に、「人間は書物で学ぶか、自分より優れた人と話をするか」の２通りしか自分を高める方法はないと教えられた。自分を高めクラブのメンバーをひきつけ成長させたい。

29 ロータリーの奉仕は“Thoughtfulness of and helpfulness to others”＝思いやりの心をもって他人のためにつくす

“He profits most who serves best”＝最もよく奉仕する者、最も多く報われる というロータリー哲学の実践にあります。

ロータリアン必携（１９８５年、１９８７年改訂版）第１巻（総論）２０頁に「ロータリーのプログラム」の中で、「奉仕の理想」とは「他人のことを思いやり、他人のために役立とうとすることである」と定義されています。

しかし、会員の意識としては、新会員の方々とベテランの方々において、かなりの意識の差があります。新会員の方々はロータリー哲学は聞いたこともなく、また興味を持って聞くまではロータリーライフをある程度味わい興味を抱くまでに期間が必要です。また入会動機もただ無理やり誘われたという人も多く存在する。それぞれの会員の仕事の忙しさ、奉仕に対する意識の違い、各クラブにおいてロータリーの本質についての議論を行っているかどうかにより、各クラブ間で差がでると思う。

ロータリー哲学について真剣に考えている会員は少数であると考えられる。

30 確かにロータリー哲学の実践は重要かも知れない。しかしながら、時代の変化とともに人々の意識も変化している。ロータリーの哲学を理解しない者は入会できないようであれば、当然会員増強など望めないではないだろうか。新会員の者でも年月を経るうちにロータリー哲学を徐々に学んでいけばよいと思う。入会１年目から、新入教育と称して頭ごなしにロータリー哲学を押し付けるようなクラブでは長続きしない。「面白くなければやめちゃうぞ」が決して悪いとは思わない。面白いロータリーを作りながら、ロータリー哲学を学んでいけば良いと考える。

31 １、クラブ理念のことでしょうか ２、今年度会長方針は「初心忘るべからず」です。

32 当クラブでは、例会の常時出席要請を行い、またクラブアセンブリ、各委員会ごとに会合を適時おこない、地区の会合が行われた時は、例会にて報告するよう要請している。また新入会員に対してはベテランクラブ員による教育日を設けロータリーについての歴史、ＲＩおよび当地区のいろいろな活動、当クラブのプロパーな活動、そしてロータリアンとして最低守るべき事項等について時には優しく、時には厳しく勉強会を開催している。また、昨年度私どもクラブの会長挨拶はすべてロータリーについてのみで、すばらしい啓蒙活動が行われました。このような活動を通してロータリーを理解してもらい会員意識の共有化をはかっている。

33 「ロータリー哲学」と大上段に構えることなく、身近なところ、実践できるところから「親睦」や「奉仕」を心がけて活動しています。

34 哲学とは？＝分からない人が多いと思います（自分も含めて）
新入教育について＝細かいことまでは注意しない傾向です。

35 確かに、ロータリー「哲学」は薄らいでいます。
新入教育＝「鉄は熱いうちにうて」に力を入れたいと思います。

36 メンバー個々人の哲学の集積が「ロータリー哲学」に帰結していくと思いますので、個々人の研鑽に加えて、過去からの成果・歴史を学び、伝えたいと思います。

37 1、「決議23-34」第1項に基づくロータリー哲学

ロータリーとは基本的に一つの人生哲学であり、自らの利益を求める利己の心と、他人のために奉仕したいという利他の心の間に存在する矛盾を和らげようとするもの。すなわちロータリー哲学はService above selfという奉仕哲学であり、They profits most who serves bestという実践倫理の原理に基づくものであると規定。

2、アーサー・F・シェルドンのサービス概念に基づくロータリー哲学

ロータリー哲学は、経営学上の「サービス概念である科学的手法」を武器にした倫理運動である。このように理解すると、日本でも江戸時代から存在している近江商法や伊勢商法との関連づけができ、三井の大番頭であった米山梅吉氏が、三井家の家訓にロータリーをプラスすることに情熱を注いだのかも理解できる。それは帰国したばかりの三井物産の若手社員であった福島喜三次氏から、ロータリーの基本になっている。当時のアメリカの経営哲学手法を学び魅了されたからではないのか、そこにロータリーの発展のキーがあったのではないのか。

※ アーサー・F・シェルドンのサービスとは（事業が継続する条件）

①適正な価格 ②経営者・従業員の接客態度 ③品揃え ④公正な広告 ⑤取扱商品に対する知識 ⑥アフターサービス等が、どのような悪条件の中でも継続的に利益をあげ、業績を伸ばしている事業所の共通の営業態度であり、これに倫理的姿勢や価値観を統合した概念として、サービスという経営概念をロータリー運動の中心目的とした。「決議23-34」に基づくロータリー哲学は、ベテランロータリアンにとって金科玉条ではありますが、あまりにも直裁で、はしたないと考えている方が多いように感じます。

一方、シェルドンのサービスのサービス概念に基づくロータリー哲学は、正に顧客満足度中心の経営、マーケティングアプローチであり、現代経営学の先駆けともいえ、非ベテランロータリアンにも理解しやすいと考えます。

奉仕の理想とはServiceという概念の哲理であり、これを職業の基礎とすれば、Serviceすればするほど多く儲かるということになる。このような説明も非ベテランロータリアンには必要ではないでしょうか。

38 「ロータリーとは何ぞや」という問題意識を持ちながらロータリー活動を日々行なっている会員は現状私を含め少ないと考えています。ただ、これまでの経験からすると、ロータリーの先輩の方々のいう「ロータリーにノーはない」「ノーはロータリーを売るときである」という言葉に表されているとおりロータリーの役職がロータリーとは何かを考えるきっかけになるといえると考えます。当クラブでは会長スローガン「原点を見つめ直そう」に基づきクラブ奉仕委員会としてIDM例会の企画・運営を行う予定です。

39 「哲学」と言われると「いったい何だ？」と思うが、私が考えるには「ロータリーの綱領」に書かれている内容ではないでしょうか。すなわち会員は自身の職業を通して「奉仕の理想」を実現するように努力しているはずであるが、本人はあまりその事を意識してなく、クラブとして奉仕活動に参加することで、なんとなく「奉仕の理想」を実現している様な気分になっている会員が大半ではなかろうか。

「哲学」…私自身不勉強で強く意識いたしておりません。今回出席させていただき皆様のご意見を参考にクラブに反映させたく存じます。

40 ロータリーの哲学について熱心に語る会員もいますが、それぞれの会員において意識の差はかなりあると思います。ただ哲学を語ることに違和感を覚えるクラブではないと思います。

① 『哲学』に関する会員の意識と現状について（３）

- 41 ・ロータリーの本質について、会報・ロータリーの友の読み所を月二回ほど情報として紹介し理解させる。
・インフォーマルミーティングを開催。（入会三年未満の会員）
- 42 ・ロータリー哲学をしっかりと理解出来ている会員は一部かもしれません。我がクラブではこのため新入会員オリエンテーションを普段の例会の中で開催して新入会員だけでなく既存の会員も今一度知識の再確認を図っていきたい。ロータリー哲学を理解しない限り真の意味での奉仕活動は出来ないと考えます。
- 43 ロータリー１００年にもなれば当初の会員意識と今の会員意識とは違って当然と思う。互いに分かり合えることがロータリー意識と思う。
- 44 クラブのモットーである「和やかにして風格あるクラブ」を基本としている。新入教育は情報委員会が担当している。
- 45 ロータリー哲学については新入会員教育における用語の説明、例会時における会長の挨拶、折にふれてあるＰＧのご指摘等により会員内の哲学にたいする意識はあると思われます。ただし、その意識が会員個人の日常生活の中でどのように実践されているかについてはかなりの差があると思われますし、そのことをテーマとしての限られた時間の中で会議を持つよりは例会時の会話の中で与えられるヒントをもとにして各自が理解していく方が身に付くと思われます。
- 46 奉仕の哲学ともいえる「超我的奉仕」の意味を理解しているのはロータリー歴の長い会員のみと思われる。入会年数の短い会員ほどその言葉には縁遠く未認識と思う。当然現状としてもその認識度に正比例するであろう「決議２３－３４」の再認識をする機会をつくるべし。ロータリー情報委員長に期待する。
「哲学」とか「実践」とか、個人として、またクラブとしても無意識のうちにそれらは行動されているのではないかとまたそんな部分は多分に存在するものと思われる。
- 47 ロータリーは実践・実行があり、後から理論が付けられ、ここで「学ぶ」とは理念を身に付けることであり「習う」とはこれを実践に移すことであります。当クラブについては、マンネリ化した改革すべき部分の排除と新しい感覚に基づく若い方達の実行力に期待をしたいと思います。
- 48 「ロータリーの哲学」について会員の考えの中には事前に持ち合わせいる訳では無く、年々経験を重ねることロータリー活動自体始めは馴染まないところが多いようですが、だんだんと考え方が変わって行くように思われます。個人差はありますが、ロータリー活動の意味を理解しようと努めている会員の方はロータリーの哲学を早く認識できるのではないのでしょうか。
- 49 当クラブは今年で１０年目の若いクラブです。会員数もなかなか増えず、現在はクラブ奉仕だけで精一杯の気がします。一昨年の会長方針で、多くの同好会が出来ましたが飲む機会が多くなり、ロータリーとはどうあるべきかと言うことを少しずつ語るようになってきたように思えます。しかし、深く考えている会員はごくわずかにとどまっているのが現状です。
- 50 特に意識したことはありません。ただ、日頃の活動のなか、先輩達の行動を見たり、話を聞いて自然に理解してきました。「哲学とは？」と大上段に構えられると、少し息苦しいのでは…。
- 51 ロータリーを語ったり考えたりする機会が少なくなっています。ロータリー情報委員会の活動の活性を計りたい。
- 52 手続要覧にロータリーの哲学という文字は見当たりませんが、ロータリーの哲学とは何でしょうか？委員長会議で勉強させていただきます。
- 53 時代背景の影響か、むつかしく考える人が少ない。ロータリークラブにメンバーとして生き残れるかどうか切実な問題である。

54 哲学ねえ～

-
- 55 ・クラブ理念のことでしょうか？
・今年度会長方針は「初心忘るべからず」です。

56 新人に対するロータリー哲学の披露の場はオリエンテーションに限られてしまっているといっても過言ではありません。さらに入会后、「本質について語られない」「教えない」状況が続きます。

しかし、かつてIMのテーマに「四つのテスト」を取り上げたことがあり、また、ある会長年度時には例会の会長挨拶のすべてが1年間を通じて「ロータリーについて」であったことから公然と哲学を語ることへの抵抗はそれほどないものと思われます。今後も時折このテーマを織り込むことが重要でしょう。

-
- 57 「哲学」への高い関心と熱い思いをもつ会員と、全く関心がなく「哲学」を語ることに拒否反応を示すような会員、この双方がクラブ内にあると思う。世代の違い、ロータリー歴の長さによる違いなどによると思うが、どちらかといえば若い会員ほど関心度は薄い。

今年度はこのことへの反省を踏まえ、新入会員を迎えて開催されるロータリー情報委員会のIMに、クラブに長く在籍する先輩ロータリアンにも参加して情報委員会のIMに、新入会員が「哲学」に触れる最初の機会を設けようと試みている。

-
- 58 私どものクラブは会員数も少なく、かつ年齢差も目立っています。そのため、クラブ内での会話の内容も日常的なことが中心で、ロータリークラブの現状や問題点等についての話はあまり語られないのが現状です。

-
- 59 哲学は意識するものではない。クラブ内での社交優先は限界がある。故に自然体でよい。ロータリー活動に於ける薬物一孤立と内向。

-
- 60 創立8年目をむかえる若いクラブのため、ロータリー哲学についてわかりやすい言葉、理解しやすい言葉で語り合える和やかな雰囲気の大切さを感じます。

-
- 61 ロータリー哲学という言葉はオフィシャルな用語なのでしょうか？定義がわからないので回答できません。

-
- 62 当クラブでは「RC＝職業奉仕」との意識が強く、私の記憶の範囲ではありますが「哲学」については真正面から論議されたことは無いように思います。

-
- 63 哲学を語る場としては、年一回のロータリー情報委員長が三年未満の会員を中心にファイアサイドミーティングを召集する程度。親睦優先の感あり。

-
- 64 哲学、ロータリー哲学を意識している会員はいないと思う。

-
- 65 私の所属するクラブでは、ロータリーを哲学として捉えたり議論したりする風土はありません。会員増強の際、哲学について語ったら新入会してもらうことは難しくなるでしょう。四大奉仕についての説明くらいがよろしいのではないのでしょうか。

-
- 66 全会員に再度ロータリーの綱領及び四つのテストなどを認識させる。

-
- 67 世の中が大きく変わるなか、ロータリーの意義とかあり方とかも変化せざるを得ないと思います。従って「哲学」とか「本質」について話し合う必要性は充分に感じていますが、今はその時期にふさわしくないと考えます。あまりに経済が悪すぎます。この不況の嵐がおさまるまで、「本質論」は一時棚上げが適切と考えます。

②「奉仕の実践」の現状について（１）

- 1 実践にも様々あり。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕のように外に向けて広い意味での実践を考えロータリーに取組んでいます。
- 2 当クラブの雰囲気として「職業奉仕」の実践が第一、しかも「We serve でなく、I serve」の考え方が多数と思う。従いクラブとして全員で一定の社会奉仕活動をするというケースは少ない。ただし否定するものではなく、クラブとして取り組める具体的な社会奉仕の実践について現在模索中である。
- 3 奉仕等の実践についてはクラブ内で話は出ても「奉仕」を具体的に「実行」する事が少なく参加人数も少ない。
具体的な参加しやすく継続出来る「奉仕活動」が必要。
- 4 会員各位は、自然にロータリアンとしてのプライドが芽生えており、場面場面において奉仕の実践というより、紳士として対応しているように見受けられる。
- 5 実践力があまりできず、人生が変わったと思う事を体験していません。
- 6 個人で行うことには限界があります。クラブ会員全員で実践し本業にさしさわりのない範囲で実践します。「ノーネクタイ」に関してクールビズの時期のみノーネクタイ賛成です。
- 7 「奉仕の実践」は、やれと言われてやることではないと思います。ロータリアン自身がそれぞれの職業を通じて奉仕の理念を理解し、それを実践し、貢献すれば良いと思います。
各クラブが行う奉仕の実践は、各クラブで最適と思われる（ロータリーにふさわしい？）いろいろな形の奉仕をすればよいと思います。
- 8 当クラブが主催する、「高校生ボランティアハートネットワーク」は、豊橋市内の１２校の高校生が学校で取り組んでいるボランティア活動を尊重し、参加校の相互理解・交流・活動報告の場を設け、ボランティア精神の育成と地域社会に対しての啓蒙活動の支援をしています。
- 9 年々肥大化しているロータリー活動と縮小化するメンバー数のなかで実践は非常に困難が伴う事態となっている。ただ慣例としてロータリー活動は負担でありその意義または身の丈の事業かどうか疑問点が残る。単年度事業であるべきと聞いたのにＣＬＰ的には３年継続となっていたり事業は意味も分からず継続していく傾向にある。実践とはただ単にやれば１年終わるという感覚である。身の丈に合ったロータリーとは？である。
- 10 実践を伴い結果を体験してこそ活動の意義を確認できる。
代表的事例：知多市ジュニア吹奏楽団発足と同時に支援開始、５年前よりは市教委、市文化協会も賛同共催となり、約２０年の歴史を誇っている。地域社会の将来性も含めた奉仕ニーズを適格にとらえ地域文化活動の先鞭をつけることとなった。
- 11 ロータリーの原点である職業を通しての奉仕活動を主にして、クラブ会員で活動する奉仕活動は、あまりしておりません。
- 12 普通に行っているつもりです。
- 13 当クラブはＣＬＰを採用して長期計画を立案し今期で３年目をむかえる。従来の２２委員会をＣＬＰ標準の５常任委員会（クラブ管理・広報・会員組織・奉仕プロジェクト・財団）と奉仕プロジェクト常任委員会の下に理事が担当する職業、社会、国際の３委員会を設け、８委員会にて具体的に効率化を図りクラブの運営を行っている。
- 14 ノーネクタイでの例会を実施中。

-
- 15 ロータリーの奉仕と、昨今のボランティア（NPO含む）活動との相違をどのように説明するか、時期がきているのではないのでしょうか。金銭だけによる奉仕なのか、実践も含めた奉仕なのか、地域とともに協働する奉仕なのか、討議する必要があるかどうか課題ではないのでしょうか。特に若い会員に対して奉仕の実践を説明・指導すべきか、あるいはクラブライフを優先する意味での奉仕もあるのではないかも考えてはいかがでしょうか。
-
- 16 「新世代委員会」＝ロータリーカップ大会 in 一宮 主催
「会員増強委員会」＝会員増強を促進するための会員増強プロジェクトを設置
「20周年記念例会」＝20周年準備委員会を設置
-
- 17 ・CLPについてはケースバイケースで適用している。
・「ノーネクタイで行こう」については当クラブは賛成しない。
・規則基本的には一枚着替えて出席する寛容が基本です。
-
- 18 やむなく退会し、その後も立派にロータリーの精神を持ち続け地域に貢献している方々がおられる。ロータリーアンの実践といえばその深さにおいて様々なのはいがめない。要は、総てのロータリーアンが真のロータリーアンになること、すなわち「奉仕を奉仕と感じさせない豊かな心の持ち主になること」そうすれば自らと実践はついてくる。
-
- 19 個人での奉仕の実践となると非常に困難が伴います。ある程度の規模や考えを達成しようと思えば大勢の会員の協力が必要になります。奉仕に関わったものは他者への奉仕によって自己の心の平安を得ることになると思います。
-
- 20 CLP＝私どものクラブは2008～09年度40周年を迎え現在、記念誌の作成に取り組んでいます。記念誌の発行に伴い過去、現在の情報を分析し未来のロータリーのあり方を検討し提案します。
「ノーネクタイでいこう」慣習への挑戦について＝地球温暖化でエコ意識も高まり私どものクラブでは6月・7月・8月・9月まではノーネクタイでもよいと理事会で承認されています。公式な行事は背広にネクタイになりますが、ロータリーの活性化や若い人を入会させるのに役に立つかどうか検証いたします。
-
- 21 社会奉仕と新世代委員会奉仕が主体です。
-
- 22 本年度も交換留学生のプログラムの実施と「Nihongoスピーチコンテスト」の協力、参加助成する。地域の青少年の各種活動を支援、助成また瀬戸市養護学校への支援等
-
- 23 地域社会に溶け込んで行うこと
-
- 24 現在会員数が減少しているため、クラブとして奉仕活動は最小限に計画しています。会員が自分の行動が奉仕的であるか、他利の意識で行動しているか？勿論自分を生かしながらである。
-
- 25 各委員会でマンネリではなく今必要とされている奉仕活動は何か、を十分に検討しあって、より有効に予算を使い切ることが大切である。要は各委員会の活性化をはかって行くことが必要と思われる。
-
- 26 ・会員自身と職業、とその職業倫理についての認識を新にし、会員同士お互いの職業とその倫理についての理解を深め職業を通じての奉仕を個人個人が考えることを啓蒙しています。
・イニシエーションスピーチもその機会をとらえて重点事項と考え実施しています。
・「ノーネクタイ」は運動としては理解できますが、強制には反対です。TPOそれぞれ個人の考え方は尊重されるべきではないでしょうか
-
- 27 私どものクラブは外部より講師を豊富に招く。当クラブの大先輩にお願いして各卓話を通じて奉仕の実践に移すべく自己研鑽に励んでおります。

②「奉仕の実践」の現状について (2)

- 28 クラブの社会奉仕活動にしても国際奉仕活動にしても委員会の一部のメンバーでの活動に依存している場合がほとんどであるが、出来るだけ多くのクラブ会員との接点が生まれるような仕掛けが必要のように思われます。
- 29 程ほどに実践していると思っています。
- 30 私事になりますが3年前に食道がんにかかり入院、手術に15時間かかりました。その時の担当医師の患者にたいする対応がすばらしく感動し感謝しました。医師は患者のために私欲を捨てて対応してくれました。まさに15時間も手術を続けるのは体力も気力も必要で大変なことであり感動した。手術するために毎日体力を鍛えているようで、まさに職業を通して奉仕していると思いロータリー哲学と思った。
- 31 自分も職業を通しての奉仕は、各個人がそれぞれ実践しているが、それ以外の奉仕についても、各個人の意識レベルにより一概には何とも言えない。新入会員では、各年度で委員会配属等により実践されていくものと考える。
- 32 当クラブでは40歳代・50歳代の会員が3分の1を占める。入会5年目以内の者も多いが、ベテランの方々よりむしろ若い者たちの方が黙々と実践しているように思われる。(ベテランの方はロータリー精神がどうのこうのと言い、なかなか事が始まらない) 物事は始めなければ先へは進まない。
- 33 奉仕は相互扶助の精神。
- 34 全会員は、必ずどこかの委員会に所属し、財団などへの寄附や、クラブ運営に寄与し、またクラブ員同士職業交流及び個人的交流を深めることにより職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の実践を行っている。
- 35 個人では出来ないような奉仕活動をロータリーの仲間と実践することで新しい価値観や大きな達成感を得たという声が上がっています。
- 36 通常のロータリー活動をしている＝「奉仕活動」をしている。一般にはそんな感覚で満足しているロータリアンが多いと思われます。「実践を通じて人生が変わった」そんな機会になかなかめぐり会えないのが現状とされます。「ノーネクタイでいこう」という提案には基本的に賛成です。ネクタイは身だしなみの一部です。する、しないは、本人の判断で…。
- 37 私どものクラブでは4年前から、都会の子と農村の子との交流を計り、農村の子には都会を、都会の子には自然を…っていいなあと思っていただくために〇〇小学校の4年生を農業体験のため、〇〇小学校の全児童と一緒に田植え、稲刈りを続けてきた結果父兄の間でも交流が深まり、本年以降も継続をお願いされています。
- 38 大澤ガバナーの「ノーネクタイ」は高齢化のロータリーの現状にマッチした勇気ある行動です。私も実践させてもらっており、数名になってきています。
- 39 ロータリークラブに入会し、例会に出席することで「奉仕の実践」はある程度なされていると思いますが、それ以上の「実践」は本人の自覚と啓蒙によるところ大であると認識しています。
- 40 I serveの職業奉仕の考え方からすれば、ロータリアン一人一人が職業を通じて社会に奉仕するということになるが、最近では食品偽装、某公益法人会長をはじめロータリーバッチをつけて釈明会見をするロータリアンを目にします。奉仕の実践についてはI serveの職業奉仕はほめられたものではないといえます。このような現状を他山の石として、私自身は職業奉仕に励みたいと思います。
- We serveの社会奉仕は、いまや我が世の春を迎えており、職業奉仕の精神がこのていらくではロータリーとライオンズのどこが違うのかという質問がでるのもうなずけます。私どもクラブでは、参加人数1000名を超える18のボランティア団体からなるRCC活動の後援など地域密着型の活動をしています。昨今の数は力なり、奉仕金額は力なりというロータリー財団主導のWCS的活動に違和感を感じています。

-
- 41 ロータリーでは「超我の奉仕」を第一標語とし、第二標語として「最も奉仕するもの、最も多く報いられる」という標語はまさに「奉仕の実践」の究極の姿であると考えております。現状において「超我の奉仕」を完全
に実践しているロータリアンは多いとはいえないが、ロータリーの主要な役職を経験した会長経験者、地区出
向者等々はロータリーへの理解が深い人々である。当クラブでは本年度「ポリオ撲滅に協力」「創立30周年記
念事業を成功させる」「クラブ定款・細則についてのクラブフォーラム」を予定しております。
-
- 42 「奉仕」について会員の意見を聞くと大半の方は理解し、ロータリアンの義務として奉仕活動に参加しなけれ
ばならないという意識が強いと感じられる。しかし個人として自ら「奉仕」をするとかまえて考えるのではなく、日
常の生活の中でちょっとした「今日はいい事したなあ」程度の参加意識ではないだろうか。会長・幹事・担当委員
長のリーダーシップでクラブとしての「奉仕活動」に参加することで充実感を得ているのが現状である。
-
- 43 クラブに入会し例会に出席しそれを重ねる過程において親睦を図り、その延長線上にクラブ奉仕の種々の実
践があると先輩に教えられています。私どものクラブでは「530運動」「植樹計画」等々に参加し経験する事
が奉仕の実践かなと思います。
-
- 44 充分に実践されているとはいえませんが、方向的には間違えずに進んでいると思います。
-
- 45 ・ベトナム口唇口蓋医療援助
・駐在所署員、夫人に感謝状
・市内、権現の森清掃、汐川、清谷川清掃活動実行委員会に支援
・会員の活動が地域との結びつきや育てる面に欠けていると思う。
-
- 46 他のクラブの会員でもこれこそロータリアンという会員がいればゲストスピーカーに招き体験談、ロータリー
観、人生哲学などをご教示していただける機会を設定していきたい。
今年度地区大澤ガバナーのノーネクタイでいこうにも賛同しますが、あくまで服装は個人の自由であるべき
ものなので各人の自由に任せたい。クラブのマンパワー、構成会員からみてCLPは是非施行していきたい。
-
- 47 共利（他利でなく）に努めたいと思う。
-
- 48 ・アイサーブ
・例会席は日ごとに変更して指定席、コミュニケーションをとっている
・人事面においてパスト会長を親睦委員会に配属したりしている
・7月8月、翌年6月はエコを考えてノーネクタイを実施している。
-
- 49 「奉仕の実践」については、当クラブ会員の中でロータリー哲学を実践していると意識して実践している方は
少ないと思われます。ただ、各個人としては地域の中で多くの方が奉仕活動を行ってみえます。これをクラブ
全体として調査し、認識していませんのでこの点は改善の必要があると思われます。
-
- 50 「哲学」と同様に「決議23-34」の中にも「奉仕の実践理論」が述べられている。またクラブとしてもお
おいにこの教えを説ように…としてあるが、クラブ内ではそれに触れることは少ない。当然実践としての現状
はいかがであるか？
-
- 51 当クラブの本年度における会長指針によるテーマ「みんなで奉仕を実感しよう」
1、親睦 2、新世代育成と交流 3、環境保全の理解と実践 4、会員増強
-
- 52 おおきなイベントを認識されている方が多く見られます。実際に奉仕活動をしてみたいのですが、何から手
をつけていいのやら分からない。他の人の奉仕活動でよかれと思う活動には積極的に協力したい。クラブで決
めた奉仕活動には参加する。

②「奉仕の実践」の現状について（３）

- 53 奉仕の実践においては昨年の会長方針が環境を重視していた関係で、例会はマイ箸持参で行われていたり、省エネカーに買い換えたりされている方が増えてきました。ごみゼロ運動への毎年の参加など環境への意識が強いクラブだと思います。
- 54 クラブ奉仕については当クラブも自分もやれていると思っております。ただ「社会奉仕」「国際奉仕」は汗をかいてないと思います。
- 55 厳しい経済下が続く中、会員各位が事業や生活環境の中でロータリー精神の真髄をもって行動することが肝要である。
- 56 昭和36年度より当クラブ独自で市内3高校の高校生に奨学金を贈呈。延べ78名進学奨励金交付、延べ48名奨学生のなかから数名のロータリアンが誕生している。
- 57 長年の慣習、各クラブの歴史に基づき全員参加で行うこと。
- 58 三河湾、佐久島海岸の清掃作業を夫人共々実施しております。ペットボトルキャップの回収。一色用排水路の浄化提言。
- 59 「実践」は多種の職業専門家の集まり、その職業の実践をしている以上、まず職業奉仕の実践は果たされているはずです。ただし、「四つのテスト」の意味等に照らし合わせてその実践の方向性が妥当なものかどうかの評価は難しいものです。
意識した「他利」は、はたして偽善ではないでしょうか。
- 60 現状は「難しいこと言うな」これに尽きる親睦であるが、こうした席上で通常の例会では知らなかった仲間の会員の嬉しい発見や心に残る深い感銘など予期しないこともあり「親睦」はあくまでも会員相互の友情を深めることと思うことに特に違和感はない。
- 61 本クラブの活動は例年通りの内容を例年とおりに行っているのが現状でした。しかし、本年度は、クラブ内の委員会活動の活性化を図るため、CLPを導入しました。まず形からでもと思い委員会構成を変えました。結果的にクラブ奉仕委員会の内容が他に分割され活動することになってしまいました。今まであまりというか殆ど開催されなかった委員会を例会の時間を使って行うように企画しました。結果はまだ目に見えるような状態ではありませんがロータリー活動が活性化することを目指し頑張っています。
- 62 CLP…持続性の重視。 新入会員の委員会配属についての配慮。
- 63 20名たらずの小さなクラブのため、身の丈にあった奉仕の実践を心がける。
各自に与えられた範囲での奉仕に集中して体験しながら勉強している。
- 64 会員の自然的な意思にもとづく奉仕の実践が遂行されていくためにはクラブ全体のもつ雰囲気が必要であり、良好な雰囲気の中で数時間を過ごせば自然に「奉仕の定義」ができるロータリアンになっていくものと思います。人の良好な雰囲気とは奉仕に関する話を聞くとといったものではなく高い職業倫理をもった紳士のあつまりが自然に醸し出す雰囲気であると考えられます。
- 65 今まで気にしていなかった奉仕・事業等、やってよかったと思う。昨年度よりCLPを導入。少人数で負担のかからないロータリー活動を実行。
- 66 当クラブでは「RC＝職業奉仕」との認識が強く、「奉仕＝個人の職業奉仕」の段階に留まっているように思います。

67 ここ2～3年壁面緑化事業を各会員企業にて実践。会員の環境意識は高い方であると感じている。

68 前の会長は我々のクラブは存在そのものに価値があると言われていました。

69 ローターリーは、ポリオプラスの活動を通じて世界に大きな貢献をしてきました。これからは全ロータリアンが力を結集して地球環境問題に取り組むことが次世代のために一番必要事と考えます。勿論宇宙環境も含めてです。

③「親睦」について）（１）

- 1 会員の相互理解と親睦があってこそ疲れないロータリー活動ができると考えます。
- 2 具体的な例会においては「親睦」が最重要な観点とほぼ全員が認識していると思います。
フォーラムや情報集会等では、深酒にならない程度のアルコールはOKです。
例会運営においても、席順くじ引き等によってコミュニケーションが偏らないよう工夫している。
- 3 時には酒の席で会員同士が語り合う事も必要である。
例会時以外の「親睦」の方がより一層の「輪」を広めることができ、退会防止策にもなる
- 4 当RCは、会員拡大と親睦は大変重視している。
- 5 酒気を帯び議論をする必要はないのでは。酒呑んでまでロータリーの話はしたくない。呑むことには大賛成。
- 6 年齢差、人生観、考え方等々人にはいろいろある。親睦は多少のアルコールがあれば本音が語れるがあまり多いと問題あり。
- 7 人と人の集まりであり、研鑽と共に会員相互の信頼関係を築く手段として「親睦」が必要と考えます。
地区委員長は、「純粋な親睦と感性的な親睦」を定義されており、「純粋な親睦」だけがロータリーの親睦と定義されておられますが、親睦の方法は、各クラブによって特長があってよいと思います。地域やそのクラブの歴史や伝統によっていろいろな親睦があると思います。
- 8 ロータリーに入会することで、奉仕活動の意識は増幅されてきてはいるが、やはり過半数の会員は親睦と異業種交流を重視しています。最終目的は奉仕であっても、車の両輪である親睦は必要であり、友情と親睦に満ち、参加しやすく明るく活力のある雰囲気作りが、退会防止と会員増強の原点であると思います。
- 9 親睦は本組織の潤滑油としての基本本質です。
- 10 あらゆる活動の原点は「親睦」。集いあい、語り合い、親しみ合い、理解しあう（特に自分との違いを理解）全てここから始まる。
- 11 春の家族旅行とクリスマス家族会を主体として親睦活動をしています。また、本年は創立60周年式典にクリスマス家族会をくりあげて家族と60周年をお祝いいたします。
- 12 特に楽しくやっています。
- 13 ロータリーの例会は親睦を重点とした心豊かな演出や気配りが重要であり、CLPを盾に会員の育成を実施し、親睦に対する会員の意識向上を図りクラブ運営を行っている。
- 14 親睦が重要な目的との認識は多くのロータリアンに存在していることも現状であり、特に新入会員が不安のなか入会されても、この目的によりロータリー活動を継続されていることは大いに理解できることです。
ただ親睦とロータリー教育は二律背反する面もあり、同時進行の度が過ぎると新入会員に対する負担となってしまうこともあるのではないのでしょうか。
- 15 会員は毎週例会に出席し有用な職業から選ばれた会員との会話等友情を深め自己改善を図りロータリーのすばらしさを実感する。
「老・壮・青」年齢を超えて色々な形で親睦活動はしています。
- 16 ロータリー活動は、まず和を持って集い、様々な情報を持ち帰り、職業を通じて奉仕していくことからすれば、親睦はロータリー活動の原点である。ロータリアン同士の語らいの場を増やすことは当然活力と奉仕に繋がる。

-
- 17 ロータリーには本来沢山の楽しみがあります。自己の業界、趣味、知識を超えた多くの友人や知り合いが出来ます。例会を始め他のクラブとの交流や地区大会にも新しい発見があります。思い切って積極的に友人を作ってください。新しい会員は例会だけではなくあらゆる機会を捉えて親睦活動に参加することでクラブの中に本当の楽しさが見つけられます。
-
- 18 ロータリーの会合である例会ではクラブの効果的な運営のために、ロータリーの原点を見つめ、魅力ある例会にするためにはどのように取り組むか議論をします。親睦活動が会員同士が一層の理解を深めるとともに、家族の皆様に参加していただけるプログラムを支援します。
-
- 19 ロータリーを超えての親睦に徹している。
-
- 20 和気あいあいムードの中会員と会員家族の友情と信頼を深める親睦会の開催をする。
夜間例会 4 回、家族会 2 回
-
- 21 必要なことであり、少ない会員が 1 つになるためには家族を含めた親睦を行うこと。
-
- 22 いろいろなニーズがあるが、過剰にならないよう有志制が妥当と思います。
-
- 23 楽しく有益で友情の広がる親睦活動を行ない、より多くの会員が参加できるようにする事が良いと思います。
-
- 24 奉仕は親睦がその原動力であることは言を待ちませんが、当クラブでは、例会、委員会とそのグループの活動に親睦の場を設ける以外に会員共通の趣味を図っています。現在活動中の趣味の会は、ゴルフ、カラオケ、グルメ、囲碁、邦楽、美術鑑賞、音楽鑑賞、競馬、カメラ、俳句に関するものまで 9 つを数え、それぞれに活発に活動しています。現在趣味の会に所属する会員数は述べ 213 名を数え、一人がおおよそ 2 つの趣味の会に所属していることになります。
-
- 25 ロータリアンは先輩、後輩間は平等から成り立っておりますから、お互いに思いやりの精神で親睦を計り、種々は行事を実行しております。
-
- 26 まずはお互いに気心が知れた間柄になることが肝心です。その仕掛けとして昨年度より同好会活動をクラブとして積極的に支援を始め現在 22 の同好会が活動中で、クラブの例会の雰囲気はかなり変わってきています。
-
- 27 ほどほどに親睦していると思います。
-
- 28 会を継続するにおいて大事なことは会員の意欲と増加だと考え、それを達成するには会員との親睦が大切であるし、その為に例えばゴルフ・酒・囲碁の集まり等々、またロータリーの本質について話したりすることが必要であり私達のクラブが会員を引き付けるに足る確固たる体質を備えるには親睦が必要である。
-
- 29 楽しくなければロータリーでないという考えで「親睦」をとらえている。
-
- 30 会合と親睦については別件と考える。会員同士だけでなく、家族や社員を含めた親睦活動を実践している。
-
- 31 会員の職業等を通じての情報交換の場、或いはディスカッションの場であり、その形式にとらわれる必要はないと思います。
-
- 32 普段は交流のない異業種の職業や違う世代の人たちと親睦を重ねることにより、貴重な意見を聞くことができ視野が広がったと感じます。
-
- 33 昨年度当クラブの会長テーマは、「和気藹々」でした。親睦は、クラブとしても退会防止に繋がると 생각합니다。

③「親睦」について) (2)

- 34 ロータリーの原動力の一つは親睦である。会員同士の深いつながりと理解と信頼がなければロータリー活動はなりたない。同時に会員家族の理解が得られなければ、会員の行動も制限され活動が萎縮してしまうのではないだろうか。ロータリーは色々な職業人の集まりであり、年齢構成もさまざまであり、まして性格にいたっては多種多彩で一朝一夕では理解と信頼を得る人間関係を結びにくい中で、アルコールの効用は無視できないものであると信じている。新人のがっかり退会については各個人の問題ですのでわかりません。
- 35 お酒を呑んだ例会では会員同士がうちとけて仲間意識が倍増します。
- 36 当クラブの親睦は満足しています。
「酒気帯びで議論してはならない」とは知りませんでした。
- 37 日頃の委員会活動・各種交歓会(旅行・家族会等)の中でお互いに理解しあう親睦ができていると思います。
- 38 例会出席し、ロータリアン同士の深い絆・信頼を育み、自分の足らざるところを他のロータリアンから学ぶという純粋親睦。そして例会以外の趣味の会、ロータリアンの企画する有志の会への参加、どちらも両輪であり、そのバランスが重要であると考えます。
- 39 ロータリーの綱領の第一に「奉仕の機会として知り合いを広めること」とあります。「親睦」はまさに創設理由そのものであると同時に現在でも重要な意義をもっているものである。当クラブでは「明るく楽しい例会」作りがクラブ創立以来のポリシーであり7月親睦例会、12月クリスマス家族会、上期納会、1月創立記念例会、4月春の家族会、5月創立30周年記念式典、5月下旬納会等を予定しています。また、海外姉妹クラブ、国内友好クラブとの交流を行っています。
- 40 「親睦」はロータリークラブを進行させる動力源であるといわれているとおり大変重要である。楽しいロータリークラブの条件はまず「親睦」によって会員相互のコミュニケーションを深め例会に参加することが楽しくなる。「奉仕活動」に参加することによってロータリアンとしての満足を得られることであると考えられる。時には酒を呑みながら「奉仕」について議論することも良いと思う。
- 41 私どもクラブが一番大切にしてきましたのが「親睦」であります。創立50余年…、毎年の大きなテーマとして取り組んでおります。他のクラブさんのご意見を参考にさせていただきたく存じます。
- 42 会員同士・家族同士の交流という面での親睦は大変うまく行っていると思います。
- 43 ・クラブ内親睦例会を年3回を4回とし家族ともどもに(家族の参加が少ない)
・各委員会ごとの親睦は年間一人3,000円補助
・ゴルフ年6回(自由参加)
※会に入会して途中退会は少なく、現状は若い人たちが頑張って会の運営ができている。
- 44 親睦はロータリークラブの様々な活動になくてはならないもの。極力会員、会員の皆さんを交えた親睦をおこない会員の心と心を通じた親睦を基盤として小さなクラブながら地域に根ざした奉仕活動をしていきたい。お酒を帯びての激論も結構と考えます。
- 45 参加してよかった。参加してよかったといえる企画を。
例えば、①一泊親睦家族旅行 ②年忘れ家族親睦例会 ③新年宴会 ④日帰り親睦家族旅行
- 46 親睦活動については本年度も会の活動として重視し、親睦例会を1回増加して年4回行なう計画をしています。昨年度においても親睦例会への出席率は通常例会の時の出席率より高い場合も多く、また自由な時間も多いうちで会員間の会話量が増えており効果は上がっていると思われます。

-
- 47 本年度、当クラブでは親睦活動委員会のみに、各会員間の親睦を頼らず、各委員会数を減らすことによって、各委員会会員数の増員を図った。そして委員会の開催促進により委員会による委員同士の親睦がおのずと発生することを期待している。効果もあがってきている。
-
- 48 親睦活動の分野を大別すると、1、会員相互 2、来訪者 3、他クラブ 4、家族となりますが、当クラブが今年度最も重要とするところは会員相互の親睦と家族との交流であります。夜間例会をはじめ多くのご家族が参加しやすい事業を企画し、大いに親睦をはかりたいと思います。岡崎公園での夜桜花見例会も企画しています。
-
- 49 ロータリー活動はまず親睦からと考えます。アンケートの全てもクラブ内での親睦活動を快くとらえています。人と人との出会いを通して協力しあう体制をつくり、ロータリー活動を基本的に「楽しく」、活発に行っていく原動力になるものであり、必要不可欠のものであると思います。
-
- 50 同好会がたくさんあることは前に触れましたが、49人のメンバーに対して7つの同好会があり、概ね活発に活動しています。
同好会に入って新入会員は退会が少ないように思えます。一泊例会も参加者はメンバー数の割りは多いほうだと思っています。
-
- 51 毎年「親睦委員会」のアイディアでクラブとしての親睦活動は充実しています。(私だけの意見かもしれませんが)。会員同士の交流も活発です。「難しいこと言うな」「がっかり退会」は見聞したことはありません。
-
- 52 例会又は例会以外にも家族が参加できる機会又酒席の会を増やしたいと思っています。
-
- 53 ロータリーは必ず親睦です。酒のでのる例会は歓迎です。当クラブでは今年度7回酒のでのる例会が予定されています。
-
- 54 仲よく楽しく活動する。
-
- 55 少人数クラブのため夫人同伴例会を多く開き親睦につとめる。和も第一と考え、夜間例会は効果大です。
-
- 56 酒気を帯びようがしらふであろうが、議論してはならないという道理はないのではないのでしょうか。もっとも、酒に飲まれている人が議論をすることは不可能とも思われますが…。親睦のためにいくつかの同好会(ゴルフ・絵画・読書…)を立ち上げましたが、充実した親睦こそが難しい議論のできる土壌と考えています。
-
- 57 現状は「難しいこと言うな」これに尽きる親睦であるが、こうした席上で通常の例会では知らなかった仲間の会員の嬉しい発見や、心に残る深い感銘など予期しないこともあり、「親睦」はあくまでも会員相互の友情を深めることと思うに特に違和感はない。
-
- 58 親睦についてはロータリークラブ会員同士において大切なことだと思っています。先にも述べたように、私どものクラブでは会員数が少ないが故に、お互いに人柄が分かりあえるのではないかと考えています。そのようなことからお酒を飲みながらの機会も多く、特にその事にこだわってはいません。
-
- 59 新人の退会→反省の機会を持つこと。
-
- 60 入会に際して、それぞれの動機があると思いますが同じロータリアンとして共通した想いを大切に一人一人の人間としてお互いに尊重しあいながら接する。
例会以外に5～10人位で食事会を開き、特に新入会員の方々を誘い親睦をはかるようにしています。

③「親睦」について）（３）

- 61 例会前の約３０分間は様々な方々と気楽に会合ができる素晴らしい時間です。又、委員長、副委員長の間柄は一緒になってロータリー活動を行なうというプロセスを通じて親しくなれるものです。クラブが行う親睦活動は家族同伴での忘年会等で充分であると考えます。
- 62 まず、楽しく活動することが第一と思います。当クラブは本年度「親睦」を重点にしている。メーキャップを兼ねて親睦旅行を行う。（昨年度は久米島ＲＣ、・本年度は函館ＲＣ予定）
- 63 当クラブでは、「職業奉仕」の次に「親睦活動」に重点が置かれているように思います。しかしながら個人的な友人関係が強いせいか新人が入る余地は狭いように思います。
- 64 全く友人のいない中に入ってくる会員については声掛けをしたり、気の合いそうな人に面倒をみてもらったりして、相当に気を使っています。親睦については「がっかり退会」などなく、非常に上手いっていると思っています。
今回自発的に読書クラブを発会しました。
- 65 人の集まりの会は必ず親睦が第一と考えています。
- 66 ロータリーに入会して一番良かった事は、一生付き合える友が出来たことだと思います。葬儀で線香を上げてくれるのもロータリーの友です。死ぬまで退会せずロータリアンでいたいと思います。

--

④ 疲れないロータリー活動（哲学を超えて）について（１）

1 判り易いクラブ運営が大切と考えます。

2 回答が大変難しいです。

クラブとして将来の方向性についてやや停滞している面もあると思いますが、各クラブ員が「疲れている」というような状況はほぼないと思っています。

3 仕事多忙な年代の多いロータリーには仕事時間を割いてまでロータリーに参加出来ない人がいる。ロータリー活動の「利点」を見出させる事で会員が疲れを上回る「価値」を見つけられるのでは。

4 ロータリークラブに所属することで、より規律規範が高まっていると感じられる。

5 平均年齢は50歳台後半と思われます。議論・行動・活動により疲弊したくありません。参加して楽しい心地よい疲労感程度が良いと思います。むつかしい事言わず価値を求めないことを望みます。

6 ?

7 「疲れないロータリー活動（哲学を超えて）」の意味がよく理解できません。地区の委員会では、哲学の定義とこのような言葉の語句についての解説をお願いします。

このアンケートの趣旨が、どのような答えを期待しているのか、よく分かりません。

ロータリークラブの活動は、人が運営する組織ですのでいろいろな問題が発生すると思います。

プラス思考でアンケートをまとめたなら如何ですか？

マイナス思考でまとめると、多くのクラブが会員の減少、魅力の無さ、活動のマンネリ化、固定費の増大、先輩の後輩いじめ指導（若い人を育てるのではなく）、地区・R Iへの固定費の増大に悩んでいます。

対策として、理念を共有して、地域性や文化に適したロータリー活動「奉仕の実践」を行えばよいと思います。もっと、ロータリークラブを難しく考えないで、楽しい集団にすれば、奉仕の実践がスムーズにできるのではないのでしょうか？

クラブが主体であって、地区やR Iが指導する時代から変化すべきではないのでしょうか？

以上の内容については、個人的見解です。

8 当クラブは、ロータリー綱領を遵守し、クラブ創立の「楽しい例会・待ち遠しい例会」がクラブの目標精神で、今年度の会長方針のクラブテーマは「和をたいせつに」となっています。ロータリー活動が疲れる活動（クラブ）になれば、クラブからの退会者が続出し、クラブの存続問題となり、絶対に避けるべきと考えます。

9 疲れてきている会員が多くなっています。経年の積み重なった継続行事、会員の相互負担など地区への招聘行事、委員会など負担で疲れています。メイクカードは意味ありません。この負担感は異常な感情でしょうか？

10 趣味共通の場合

例会運営の充実→仲間と会う日が待ち遠しい、例会前の30分、例会後の30分まで魅力あるものとする。

11 毎週の例会を楽しく出席できますように心がけております。

楽しいから疲れない

12 単なるマニュアルに頼るプログラムに留まらず、対話と体験を重視して活動する。

奉仕することにより得られた結果、ある意味での「達成感」を感じ取ることは哲学を超えることではないでしょうか。そのために、活動の企画から、実行準備、実践行動、そして活動終了の一連のプロセスを経験することによりこの達成感が得られると考えます。ただし、ロータリアンによる負担回避行動も否定できない事実があります。

13 奉仕活動と親睦活動を活用し楽しいクラブを運営する。

-
- 14 当クラブは身の丈にあわせ出来る限り可能なロータリー活動をしてきました。その中でロータリー活動に疲れる・疲れないという選択は私共のクラブにはありません。
-
- 15 ロータリーの考え方を敷衍していくことが大切である。後は気負うことなく、自ずと個々が職業を通して奉仕に気持ちが向かっていけばよい。
-
- 16 会員はそれぞれが大切な時間を割きロータリーの例会や活動に参加しています。自己の業界とは全く関係のなかった各業界を代表する立派な人たちと知り合いになれることはそれだけでも価値のある良い成果だと思います。
あまり気負わず平常心で例会やロータリー活動に参加したいものです。
-
- 17 ガバナー月信の電子化により私をはじめ！Ｔ識字率向上が望まれ受信できるよう！Ｔ勉強会を始めます。これは「疲労を上回る価値」に繋がると思います。
-
- 18 身の丈にあった活動でいいと思う。
-
- 19 クラブテーマ「例会を楽しもう」そして大切にしようという事で例会はメンバーを基本に、又地元地域の方々に卓話をお願いして会員の資質向上に努める。食事についても楽しい食事に努め情報交換の場所を提供する。
-
- 20 身の丈にあった中で、無理をしない、強制しないようにすること。
-
- 21 ロータリーが自己の人生を豊かにするか？多くの素晴らしい友人との出会い、奉仕による感動、非常に個人的な、要するにアイサーブ。疲れるとは義務感の重圧ではないか。
-
- 22 友好的な雰囲気の中で気軽に自然体で奉仕活動が出来るようにして行けたらよいと思います。
-
- 23 ロータリー活動で疲れていては本末転倒です。必ず明日につながる、むしろ元気をもらう活動を心がけています。
-
- 24 ロータリアンは先輩・後輩間は平等から成り立っておりますから、お互いに思いやり精神で親睦をはかり、種々な行事を実行しております。
-
- 25 当たり前のことですが、さまざまな考え方の会員がいます。
先ずはあまり無理しないことだと思います。
-
- 26 仕事より、熱心にロータリー活動をと要求されると疲れます。ほどほどが一番。
-
- 27 いろいろな委員会での活動や奉仕の実態など疲れることが多いが、その結果人生が豊かになり別人のように変わることもあり、満足で豊かな気持ちになる。こういう時にはロータリーの魔術を感じることがあります
-
- 28 それぞれが、それなりの役職にある人たちがばかりの集団であり、上下関係がないのが本来であるが、どうしても、ロータリー命の先輩諸氏の小言意見がはこびることが疲れる最大の原因だと考える。しかしそれも必要なことであり、むづかしい問題である。故に新入会員のロータリーを理解されるまでの期間を、ゆとりを持って大きい心でやさしく接してあげることが重要であると考えている。
-
- 29 「疲労」は自分に負担が大きくなった時に感じますが、個々の活動の意味を考えると、ロータリーならではの価値の元でその成果があります。従って、価値を考えた上で活動を有意義に実践することにより、「疲れた」ではなく、「充実した」時間を過ごしたと思うことができるように、ロータリー活動を行ないたいと考えています。
-

④ 疲れないロータリー活動（哲学を超えて）について（２）

- 30 現在行っているロータリー活動が、自分のためであり、地域社会のためでもあり、また将来の世界に大きく貢献しうる活動である事を認識し、実感出来れば、ロータリーの活動も楽しいものとなると思います。
- 31 私は気分転換のために毎回参加しております。９年間続いたホーム連続出席もついに、先日途絶えてしまいましたが、今年度より又誓いも新に１００％出席を目指します。
- 32 職業による奉仕が疲れないロータリー活動の基本であると思います。
- 33 疲れを感じるかどうかは、心の持ちようによって大きく異なります。いやいや参加すれば疲れを感じるでしょうし、進んで参加すれば疲れは感じないでしょう。とにかく例会に出席し、提供されるプログラムにはできる限り出席し、ロータリーの友は熟読する。ここまでやればロータリー活動を疲れるとは感じず、歴代ガバナーのようにロータリー活動を快感に変えることができると思います。世阿弥百選の中に「習いつつ 見てこそ習え 習わずに 良し悪しをいうは 愚かなりけり」という歌があります。とにかく関われば関わるほど、知れば知るほど、ロータリーを好きになるという先達の言葉を信じてロータリー活動に参加し続けるしか疲れをとる方法はないと思います。
- 34 疲れないロータリー活動とは、まさに自然体で行うロータリー活動であると考えます。ロータリーにおいて仕事とロータリーの両立の問題があります。仕事の中にロータリーあり、ロータリーの中に仕事があるというのが理想ではありますが、なかなかこの域に達するのは難しいと思いますが、年を重ねながらゆっくりと理想に向かっていけばよいと考えております。
- 当クラブではクラブ奉仕委員会として、クラブ奉仕内の委員会の強力なる力を結集してクラブを活性化させるべく行動する予定です。そのためクラブ奉仕協議会（７月と１月）を年２回開催し委員長とコミュニケーションをとる予定です。
- 35 強制されて活動するのではなく、ＲＩの中の１つのクラブとして恥ずかしくないように「活動」していく為に、会員相互がお互いを理解・尊重する。クラブとして決定された活動には各自すすんで参加、協力していく活動が実現されると、楽しくて疲れない活動になる。その為の「親睦」が重要だと思う。
- 36 本年度は４月１８日の２７６０地区協議会のホストクラブとして全員で成功に導きたく努力し汗をかき…参加いただいた地区会員の皆様が感動し喜んで帰っていただけるプログラムをと頑張っておりまます。
- 今年度はクラブ全員が疲労を上回る充実した価値を見出せるような地区協議会になったらと存じます。
- 37 規模・クラブの活動内容・環境等、恵まれているクラブといえると思っています。５０年を超えたクラブの歴史がより良い状況を育てていると思います。本年度、当クラブからは２人目のガバナーを出させていただいています。クラブにとっては新入会員・若手会員の成長の機会となり、有難いことだと考えています。
- 38 活動が毎年の繰り返しであり、上回る努力に欠ける当クラブでは新入会員、３～７年の会員がしっかり活動していると思う。
- 39 意味がよくわからない。
- そのような活動が哲学を認識しながら会員に適切な感銘を与えられるかについては難しい問題ですが、会員の反応を細かく観察しながら活動修正より無いと考えています。
- 40 本来もっとロータリー活動は、志を一つにした人たちの自由な集まりのはず、それがいつしか妙に出席率にこだわったり、なにか小さな重箱の隅をつつくような印象も…仕事で疲れていても週一度仲間と一緒に食事をして自分の知らない分野の知識を得ることで疲れが取れ新たなステップアップへとモチベーションが高まれば最高でしょう。
- モチベーション＝やる気＝ファイトがクラブの活性化にもプラス効果も…ロータリーはもっと自由度がすべての点であれば会員数も再び増加するのではないのでしょうか？

-
- 41 各事業の数や規模がそのキャパシティを超えうる感じに思われる。ロータリアンとしてその構成年齢相応のゆったりとしたその時の流れの速度と同レベルの活動を切に願う。
-
- 42 ポールハリスは例会に出席すると童心に帰ることが出来ると言われたそうであります。私どものロータリーの例会は職業分類に依って異業種の集まりであり、競争心も警戒心もなく、目上の人も家来も子分もない職業分類という点から皆んな平等であり、信用できる人ばかりの集いであるかであります。特別な気遣い等のない明るい楽しい和気あいのクラブであって欲しいと願うところであります。
-
- 43 夫々のアンケートの中には「世界的な奉仕活動については政治的な力は不可欠である」、「活動そのものより異業種の人々と共有する時間をすごせる事が大切であり、その為には多少の苦勞はいとわない」、など様々な意見がありました。現在のRCの方針とは多少ずれるのかも知れませんが、夫々の意見を尊重し、批判をせず、検討を重ねつつ活動をしていけばあまり重荷になるものではないと考えます。また、楽しい行事だけを取り上げるのもよろしいでしょうが、奉仕活動が必要と思います。
-
- 44 積極的に活動する人と、面倒なことは極力避ける人と両極端に分かれているようです。特にクラブ奉仕については、メンバーが同じ負担になれば理想ですが、積極的に活動されている一部のメンバーばかりに頼ってはられないので、現在は入会年度の浅いメンバーのオリエンテーションや、その他の勉強会などで新入教育を行っているところです。
-
- 45 ロータリー活動に疲れたことがないのでよく分かりません。
深く考えてロータリー活動をしてなかったのかも知れませんが、でも、ロータリークラブは居心地の良いところだと感じております。
-
- 46 クラブ内の“和”を醸造することにより、楽しめるロータリー活動にかえる。
-
- 47 勉強したいと思います。
会長経験者2名、哲学という文字を見るだけで疲勞を覚えます。
-
- 48 全員個々の感性、個性を重視する。
-
- 49 1 新入会員には委員会に2つ入っていただき雰囲気になれるようにする。
2 あまり無理な押し付けはしない
3 入会者以上にチャーターメンバー始め年齢的限界が退会者も多く困っています。社会情勢も悪すぎます。
-
- 50 疲れたり、苦勞したりしないことが本来だと考えています。傍目には苦勞しているように見えても、本人が「楽しくなるような」ロータリー活動が理想です。
-
- 51 有意義な例会、積極的に出席しようと思える例会づくりに努めることがまずは第一歩と考える。
自分がやりたいと思えることは時間や労力を消費しても疲れない。
ロータリー哲学という言葉にこれといった定義があるとは思っていません。会員それぞれの価値観や考え方があり、その事を押し付けるような事はあまり好ましくないと思っています。
お互いの考え方や事情を尊重しながら、その中でロータリー活動を行っていくべきだと考えています。
-
- 52 ロータリー活動 職業と年齢により自ら活動の領域を広げる努力。…広報が大切。
ニコボックスによる認識等。週報、ガバナー月信の重要性。
-
- 53 会員それぞれ自分達の置かれた条件、立場が違うとは思いますが自分達のクラブ、個人それぞれ自分の身の丈にあったロータリー活動を心がける。また、会員同士の助け合いをしながら自分の楽しいと思う範囲で行なう。無理が続くと疲れが増す。

④ 疲れないロータリー活動（哲学を超えて）について（３）

- 54 疲れてまでロータリー活動を行なうロータリアンがいるとしたら、それは役職に伴う責任を果たすための非自発的な活動に違いありません。疲れるほどのロータリー活動は退会者を増加させる結果、クラブの衰退に繋がると思います。自発的に楽しくロータリー活動を行えば疲れることはないはずです。ロータリー活動を通じた様々なロータリアンの高い職業倫理を感じ、自らの職業で研鑽をつめばよいと考えます。
- 55 一部の役員さんを除いて、会員間で「疲れる」という意識はないように思います。
- 56 会員を見回してみるとロータリー活動を苦痛に感じている者はあまり見当たりません。逆にリフレッシュの場、新鮮な場所と考えている会員が多いように感じます。
- 57 疲れるロータリーであつたら、ただちに退会していると思います。

2009～2010年度クラブ奉仕委員会

- ◎ 藤原 研一(名古屋名北)
- 井上 穂(豊橋ゴールデン)
- 水野 聖仁(小牧)
- 多田 通夫(名古屋城北)
- 天野 正明(名古屋瑞穂)
- 重富 亮(名古屋守山)
- 糸井 学(名古屋みなと)
- 志賀 弘嗣(蒲郡)
- 田中 暉昇(岡崎城南)